



取扱説明書

⚠ ご使用前には必ず取扱説明書を
よく読んでください。



モーターサイクル

NMAX155 (GPD155-A)

BBD-F8199-J1 ●

安全運転のために

1

各部の名称

2

スマートキーシステム

3

アイドリングストップ機能

4

各部の取り扱いと操作

5

日常点検

6

運転操作

7

点検整備

8

お車の手入れ

9

製品仕様

10

ユーザー情報

11

索引

12

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-5
環境・住民の方との調和のために	1-6

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

スマートキーシステム	3-1
スマートキーシステムの概要	3-1
スマートキーおよび	
メカニカルキーの取り扱い	3-2
スマートキー操作のしかた	3-4
スマートキーの電池	3-5
メインスイッチ	3-6
スマートキーシステムの作動範囲	3-9

アイドリングストップ機能	4-1
アイドリングストップ機能	4-1
アイドリングストップの操作手順と	
作動	4-1

各部の取り扱いと操作	5-1
警告灯と表示灯	5-1
マルチファンクションメーター	5-2
盗難警報器（別売アクセサリ）	5-7
ハンドルスイッチ	5-8
フロントブレーキレバー	5-9
リヤブレーキレバー	5-9
ABS	5-10

トラクションコントロール	
システム	5-10
フューエルタンクキャップ	5-12
燃料	5-13
シート	5-13
ヘルメットホルダー	5-14
書類入れ	5-14
小物入れとトランク	5-15
リヤクッションの調整	5-16
スタンディングハンドル	5-16
パワーアウトレット	5-17
DC コネクター	5-17
サイドスタンド	5-18
イグニッションサーキット	
カットオフシステム	5-18

日常点検	6-1
日常点検の実施	6-1
日常点検箇所／点検内容	6-1

運転操作	7-1
ならし運転	7-1
エンジン始動	7-1
発進	7-2
加速と減速	7-2
ブレーキ	7-3
駐車	7-3

点検整備	8-1
点検整備の実施	8-1
サービスツール	8-2
カバーの取り外し、取り付け	8-2

エンジンオイル	8-3
ファイナルギヤオイルの交換時期	8-4
エンジンのかかり具合、	
異音の点検	8-4
低速、加速の状態の点検	8-5
冷却水	8-5
エアクリナーエレメント、	
Vベルトフィルターエレメント	8-7
タイヤ	8-9
ブレーキレバーの遊び、	
きき具合の点検	8-11
ブレーキパッドの点検	8-11
ブレーキ液量の点検	8-12
バックミラー	8-12
車体各部の給油脂状態の点検	8-13
バッテリー	8-13
ヒューズ交換	8-15
灯火装置および方向指示灯の点検	8-16
運行において異常が認められた	
箇所の点検	8-17
こんなときは	8-17
スマートキーシステムの	
エマージェンシーモード	8-20

お車の手入れ	9-1
洗車	9-1
キャストホイールの取り扱い	9-2
ウインドシールドの取り扱い	9-2
保管のしかた	9-3
アフターケア用品について	9-3

製品仕様.....	10-1
-----------	------

ユーザー情報.....	11-1
-------------	------

二輪車を廃棄する場合は？	11-1
--------------------	------

 サービスマニュアル（別売）の

紹介.....	11-2
---------	------

車両情報	11-2
------------	------

索引	12-1
----------	------

安全運転のために

1

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

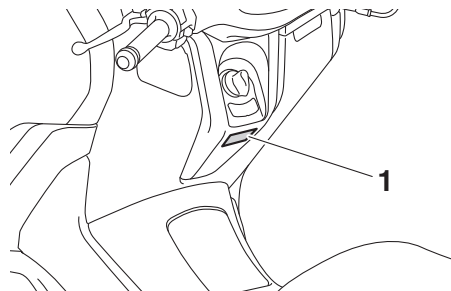
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

JAU74831

警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - プロテクターを備えた保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
 - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
 - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

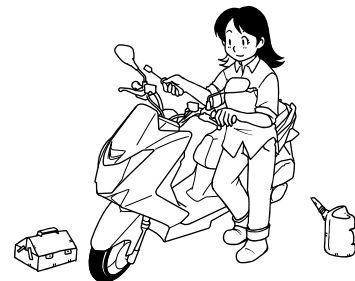
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を行ってください。また、法令に準じた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

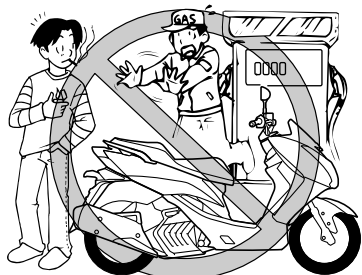
安全運転のために

1

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

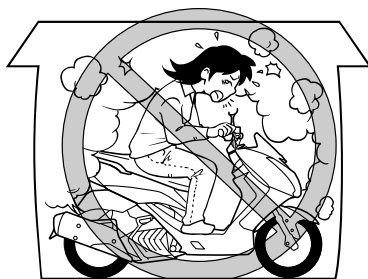
給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

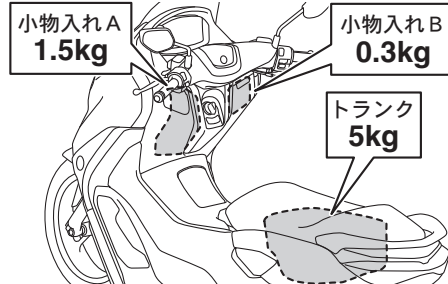


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物を積むときは



- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。

- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレストボード

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストボードにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



押して移動するときはエンジンを止める

車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。

やむをえずエンジンをかけたまま移動するときはスロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。スロットルグリップを持って行くとかわぬ事故の原因となります。



乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

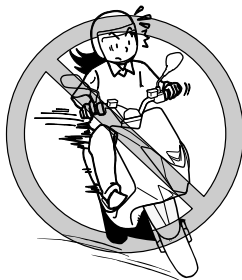
タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。



急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にエンジンを停止する。

- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

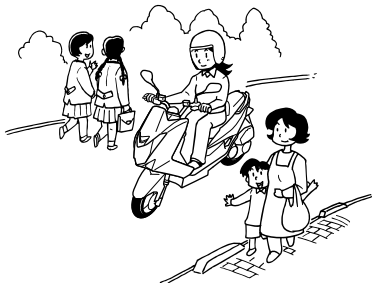
安全運転のために

1 歩行者と他の車のために

JAU66240

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

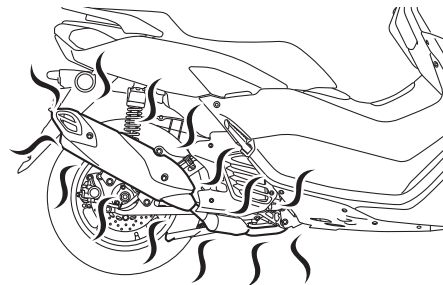
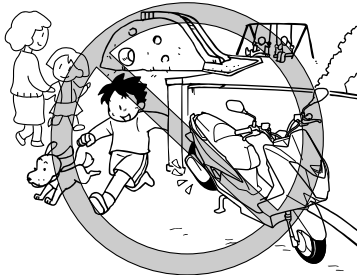
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、スマートキーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12241

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所に行ってください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



昼間はヘッドライトを下向きに

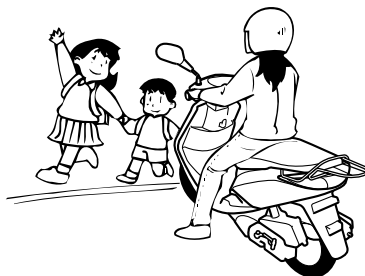
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27651

環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

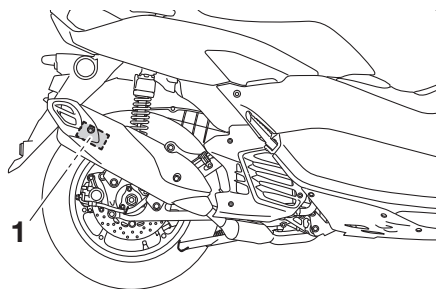


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換

する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

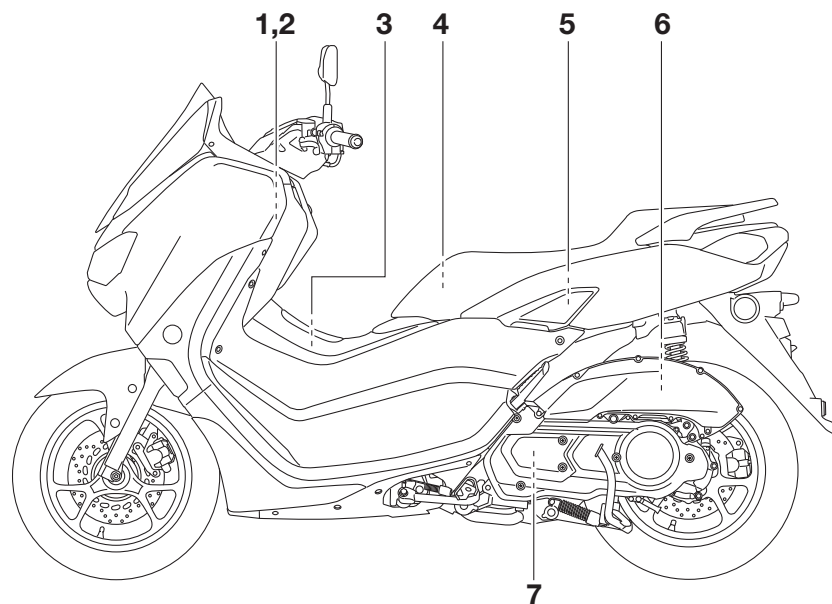
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

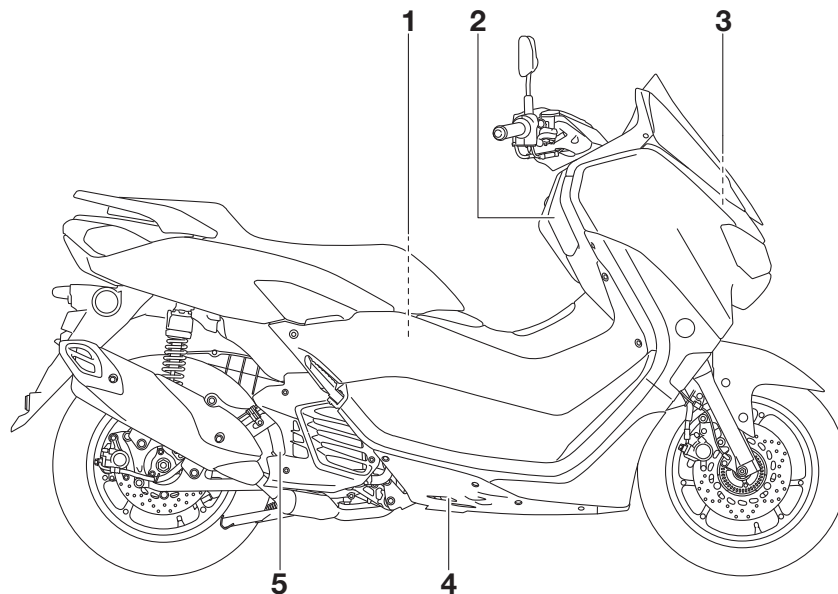
左側面

2



1. 小物入れ A (P5-15)
2. パワーアウトレット (P5-17)
3. フューエルタンクキャップ (P5-12)
4. サービスツール (P8-2)
5. トランク (P5-15)
6. エアクリーナーエレメント (P 8-7)
7. V ベルトフィルターエレメント (P8-7)

右側面



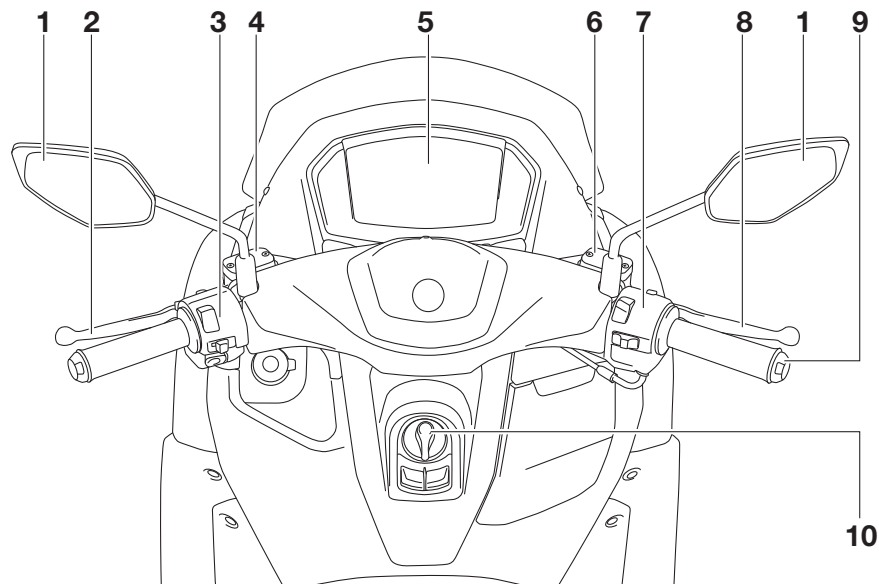
1. バッテリー (P8-13)
2. 小物入れ B (P5-15)
3. ヒューズボックス (P 8-15)
4. リカバリータンク (P8-5)
5. オイル注入口 (P8-3)

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類

2



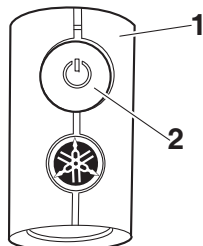
1. バックミラー (P8-12)
2. リヤブレーキレバー (P8-11/P5-9)
3. ハンドルスイッチ (左) (P5-8)
4. リヤブレーキリザーバータンク (P8-12)
5. マルチファンクションメーター (P5-2)
6. フロントブレーキリザーバータンク (P8-12)
7. ハンドルスイッチ (右) (P5-8)
8. フロントブレーキレバー (P8-11/P5-9)
9. スロットルグリップ (P7-2)

10. メインスイッチ (P3-6)

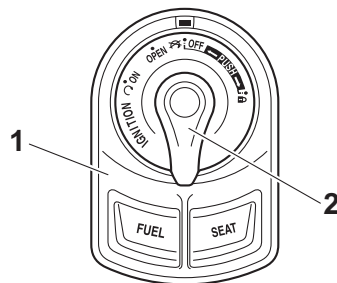
スマートキーシステムの概要

スマートキーシステムは、スマートキーを持っていることにより、メカニカルキーを取り出すことなく次の操作が可能になるシステムです。また、駐車場で車を見つけるのに役立つアンサーバック機能付きです。

- 電源の ON/OFF
- エンジンの始動と停止
- ハンドルロックの解除 / 施錠
- シートロックの解除
- フューエルタンクキャップリッドの解除



1. スマートキー
2. スマートキーボタン



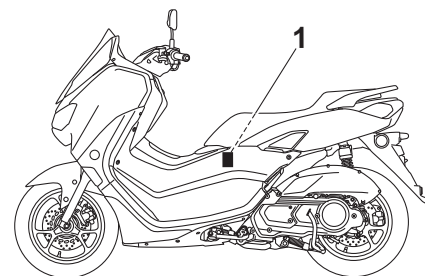
1. メインスイッチ
2. メインスイッチノブ

要 点

- 長期間使用しなかったとき、またはバッテリーを取り外して再接続したときなど、車両の電源を ON にしてエンジンを始動する前に、システムの関係から自動的に電源が OFF になることがあります。このようなときは、再度車両の電源を ON にしてからエンジンを始動してください。
- 最後に車を使用してから（車両の電源を ON から OFF にしてから）約 9 日間経過すると、バッテリー保護のためスマートキーの使用ができなくなります。この状態のとき電源を ON にすると、エンジンを始動する前にシステムの関係から、自動的に電源が OFF になります。このようなときは、再度車両の電源を ON にすると、エンジンを始動することができます。

警告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、車載アンテナ（イラスト参照）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。スマートキーシステムは、トランクの左側に設置されたアンテナを使用して微弱電波を発信しています。この電波により、植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響を与えるおそれがあります。その他の医療用電子機器をご使用のお客様は、医師や医療用電気機器製造業者などに影響の有無を確認してからご使用ください。



1. 車載アンテナ

スマートキーシステム

JCA24080

注意

スマートキーシステムは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートキーシステムが正常に作動しないことがあり、各種ロックの解除や電源の ON などができないことがあります。

- 強い電波、ノイズのある場所に置いたとき。
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。
- スマートキーを、携帯電話や無線機などの通信機器と一緒に携帯しているとき、または使用しているとき。
- スマートキーが金属物に触れていたり、覆われているとき。
- スマートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。
- 近くで他の車がスマートキーシステムを使用しているとき。

このようなときはスマートキーの場所を移動して、再度操作を行ってください。それでも作動しないときは、エマージェンシーモード (8-20 ページ参照) で操作を行ってください。

JAU76461

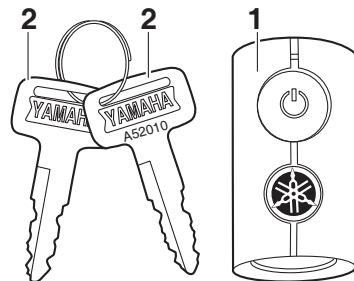
スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い

JWA17952

警告

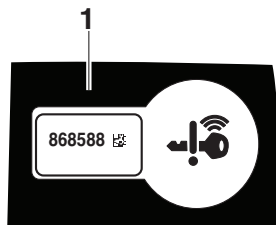
- スマートキーは、運転者が必ず携帯してください。
- スマートキーが作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない人でもエンジンの始動やシートロックの解除、ハンドルロックの解除／施錠が可能ですので、充分に注意してください。

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないよう、充分に注意してください。
- この車には、スマートキー 1 個、メカニカルキー 2 本、ID 番号カード 1 枚が付属しています。メカニカルキーと ID 番号カードは、車の保管場所とは別にして大切に保管してください。また、ID 番号カードの紛失に備えて、ID 番号をメモなどに控えておくことをおすすめします。



1. スマートキー
2. メカニカルキー

- 車両のバッテリー電圧が低下している場合は、メカニカルキーを使用してシートを開けることができます。スマートキーと一緒にメカニカルキー 1 本を携帯してください。
- スマートキーと ID 番号カード (ID 番号の控えを含む) を全て紛失または破損したときは、スマートキーシステム全体の部品交換になります。詳しくは販売店にご相談ください。
- スマートキーの ID 番号 (6 桁数字) は ID 番号カードに記されています。緊急時にはこのスマートキーの ID 番号 (6 桁数字) を入力することで、スマートキーを使用せずに各種ロックの解除やエンジンの始動が可能になります。緊急時の操作方法については、8-20 ページのエマージェンシーモードを参照してください。



1. ID 番号カード

JCA27090

注 意

スマートキーは、信号を発信するための精密な電子部品を内蔵しています。故障の原因となりますので、以下のことを守ってください。

- トランク内にスマートキーを置いたり収納したりしないでください。振動や過度な熱によりスマートキーが損傷するおそれがあります。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 重いものを上に置かないでください。
- 直射日光があたる場所や、高温、多湿になるところに放置しないでください。
- 火であぶったりしないでください。
- 削ったり、穴を開けたりしないでください。

- 超音波洗浄器などで洗浄しないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。
- テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。
- 低周波治療器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。
- ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着しないようにしてください。変形したり、ひび割れたりすることがあります。
- シールを貼らないでください。

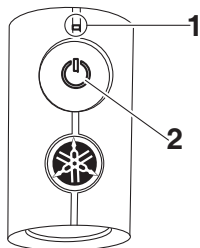
要 点

- スマートキーは車から離れているときも電池を消耗しています。
- 電池の寿命は使用状況により異なりますが、約 2 年程度です。(全く使用しなくても電池は消耗します。)
- 車両の電源をオンにした時にメーターのスマートキーシステム表示灯が点滅(約 20 秒)した場合は、新しい電池に交換してください。(電池交換のしかたは、3-5 ページ参照)
- スマートキーは電波を受信し続けた場合、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。(例：テレビやパソコンなどの電気製品の近くに置いているとき)
- スマートキーボタンを押してもスマートキー表示ランプが点灯しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。電池を交換しても直らない場合は、販売店にご相談ください。

スマートキーシステム

JAU93480

スマートキー操作のしかた



1. スマートキー表示ランプ
2. スマートキーボタン

スマートキーのロック／アンロック切替

スマートキーを使用できる状態（アンロック）にするか、使用できない状態（ロック）にするかの切替方法です。

スマートキーボタンを長押し（1 秒以上）することで、スマートキーの通信モードを切り替えることができます。

- スマートキー表示ランプが1 回点滅したとき・・・スマートキーがアンロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できます）
- スマートキー表示ランプが長めに1 回点滅したとき・・・スマートキーがロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できません）

スマートキーのロック／アンロック状態を確認する

スマートキーボタンを短押し（1 秒以内）することで、現在の通信モードの状態をスマートキー表示ランプによって確認することができます。

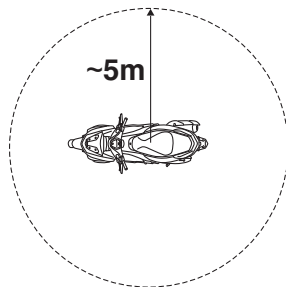
- スマートキー表示ランプが1 回点滅したとき・・・アンロック状態になっています。
- スマートキー表示ランプが長めに1 回点滅したとき・・・ロック状態になっています。

アンサーバック機能

スマートキーボタンを押してアンサーバック機能を遠隔操作すると、ブザーが2 回鳴り、全ての方向指示器が2 回点滅します。この機能は駐車場やその他の場所で自分の車を見つけるのに便利です。

遠隔操作範囲

スマートキーでアンサーバックの遠隔操作を行うことができる範囲は、およそ下図の範囲です。



要 点

スマートキーは微弱な電波を使用しているため、周囲の状況により操作範囲が変化することがあります。（3-9 ページを参照）

アンサーバックブザーのオンとオフの切替

アンサーバック機能が作動したときに鳴るブザーは、以下の手順に従ってオンまたはオフに切り替えることができます。

1. スマートキーをアンロック状態にして、作動範囲内に移動します。
2. メインスイッチを OFF にし、メインスイッチノブを1 回押します。
3. ノブを押して9 秒以内に、もう一度ノブを長押し（5 秒）します。
4. ブザーが鳴ると、設定が完了します。
 - ブザーが1 回：アンサーバックブザーがオンに設定されました。
 - ブザーが2 回：アンサーバックブザーがオフに設定されました。

スマートキーの電池

JAU83294



1. スマートキーシステム表示灯 “”

車両の電源をオンにしたとき、スマートキーシステム表示灯が約 20 秒間点滅する場合は、電池残量が少なくなっているため、新しい電池と交換してください。

アンサーバック機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合も新しい電池と交換してください。

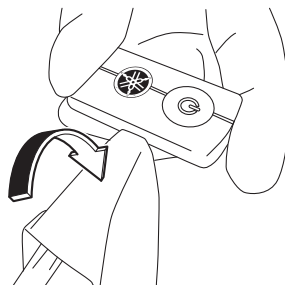
JWA14724

警告

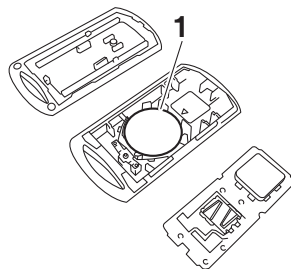
- 電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受けるおそれがあります。電池および取り外した部品を、子供の手が届くところに置かないでください。
- 電池を直射日光に当てたり、熱源に近づけるなどしないでください。

電池交換のしかた

1. 図のようにスマートキーのケースを開けます。



2. 電池を取り外します。



1. 電池

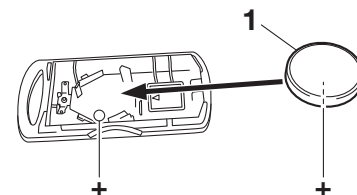
要点

取り外した電池は、電池の説明書や各自治体の規則に従って処分してください。

3. 電池の向き（表裏）に注意し、図のようにプラス面を下に向けて、新しい電池を取り付けてください。

使用電池：

ボタン電池 CR2032×1 個



1. 電池

4. スマートキーのケースを閉じます。

JCA15785

注意

- ドライバーなどにウエスをあてながら、部品を取り外してください。硬いものを直接あてがうと、本体に傷をつけるおそれがあります。
- 電池の＋極と－極は必ず、正しく取り付けてください。
- 防水シール部分の傷つきや、ゴミの混入に注意してください。耐水性能の低下や、故障の原因となります。

スマートキーシステム

- 内部の回路や端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際、本体に無理な力を加えないでください。
- 電池交換後は、スマートキーシステムの各機能が正常に作動するか必ず、確認してください。

3

メインスイッチ

JAU93460

JWA18720



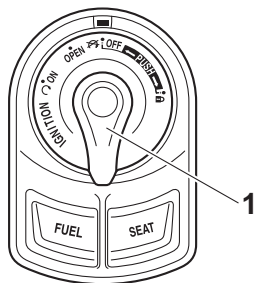
警告

走行中にメインスイッチをOFF、“”、“OPEN”の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

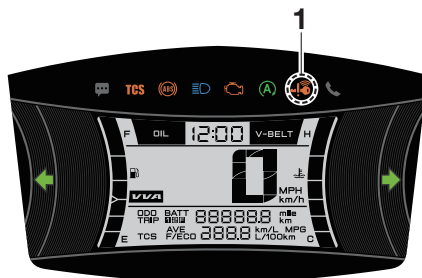
要点

メインスイッチノブを何度も押さないでください。メインスイッチノブを何度も押すと、メインスイッチを保護するためにスマートキーシステムは一時的に無効となり、スマートキーシステム表示灯が点滅します。この場合、表示灯が消灯してからメインスイッチを再び操作してください。

メインスイッチの位置は以下のとおりです。



1. メインスイッチノブ

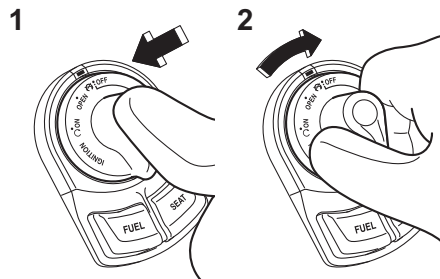


1. スマートキーシステム表示灯 “”

メインスイッチは車両の電源のON/OFF、ハンドルロック操作とシート・フューエルタンクキャップリッドのロック解除を行います。メインスイッチノブを押してスマートキーが認証された後、スマートキーシステム表示灯が点灯している間（約4秒）メインスイッチを回すことができます。

ON

JAU83250



1. 押す
2. 回す

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンが始動させることができます。

車両の電源の ON のしかた

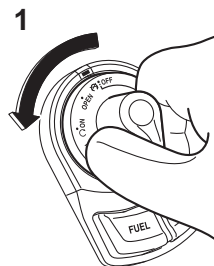
1. スマートキーをアンロック状態にして、作動範囲内に移動します。
2. メインスイッチノブを押すとスマートキーシステム表示灯が約4秒間点灯します。
3. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチを ON にすると、車両の電源が ON になります。

要 点

スマートキーを使わずに車両の電源を ON するには 8-20 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

OFF

JAU83260



1. 回す

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。

車両の電源の OFF のしかた

1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチを OFF にします。
2. 車両の電源が OFF になります。

要 点

メインスイッチを OFF にしたとき、スマートキーが認識できない（スマートキーが作動範囲外もしくはオフになっている）場合、ブザーが3秒間鳴り、スマートキーシステム表示灯が30秒間点滅します。

- スマートキーシステム表示灯が点滅している30秒間はメインスイッチを操作できません。

- 30秒後、車両の電源は自動的にOFFになります。
- 車両の電源をすぐにOFFにする場合は、メインスイッチノブを2秒以内に4回押します。

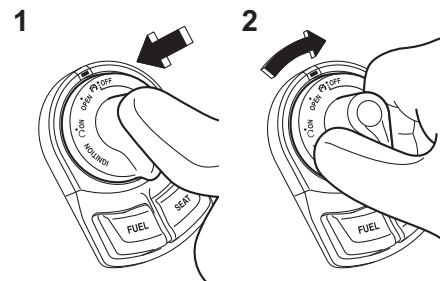
3

JAU76534

OPEN

フューエルタンクキャップリッドとシートを開くことができます。

1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
2. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチを OPEN にします。

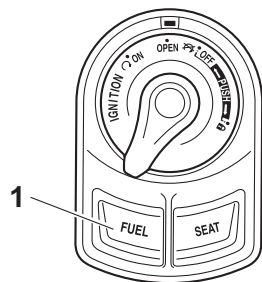


1. 押す
2. 回す

スマートキーシステム

フューエルタンクキャップリッドの開けかた シートの開けかた

3

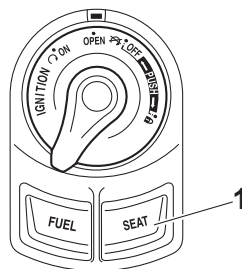


1. “FUEL” ボタン

“FUEL” ボタンを押して、フューエルタンクキャップリッドを開けます。
給油後、フューエルタンクキャップリッドを押して閉めます。

要 点

フューエルタンクキャップの取り外し、取り付けかたについては、5-12 ページを参照してください。



1. “SEAT” ボタン

“SEAT” ボタンを押して、シート後部を持ち上げます。
シートを閉めるには、シートを下ろし、シート後部を押さえてロックします。

要 点

- 走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。
- シートはメカニカルキーでも開けることができます。5-13 ページを参照)

OPEN 放置警告機能

メインスイッチを OPEN にした状態の車両の電源切り忘れを防ぐため、以下の条件でスマートキーシステムのブザーが鳴ります。

- メインスイッチを OPEN にしたまま3分間放置したとき
- メインスイッチを OPEN にしたままスマートキーをロック状態にしたとき

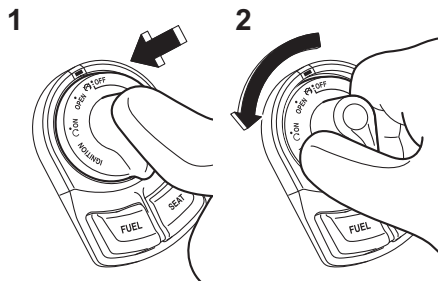
- メインスイッチを OPEN にしたままスマートキーを作動範囲外に移動させたとき
- 3 分間放置してブザーが鳴ったときは、メインスイッチを OFF または “**I**” にしてください。スマートキーがロック状態、または作動範囲外にあるときは、スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動してください。

要 点

- ブザーは 1 分後に停止します。

JAU76521

“**I**” (ロック)



1. 押す
2. 押し直し

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。

ハンドルロックのしかた

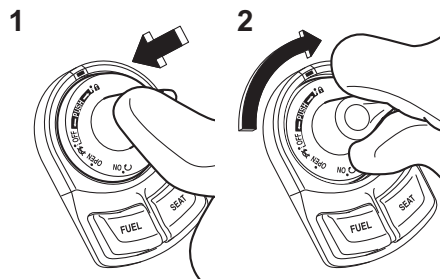
1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。

2. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
3. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチを“”にします。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらメインスイッチノブを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



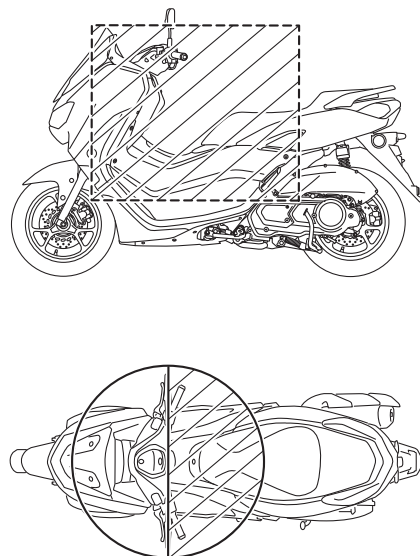
1. 押す
2. 押し回し

1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
2. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチノブを任意の位置に回します。

スマートキーシステムの作動範囲

JAU76453

車がスマートキーの所在を確認して認証するときの作動範囲は、およそ下図の範囲です。



スマートキーがロック状態の場合、スマートキーを持ってもスマートキーシステムは作動しません。スマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。

要 点

- トランク内にスマートキーを置かないでください。
- スマートキーは、必ず運転者が携帯してください。
- 車から離れるときは、スマートキーをロックの状態にしてください。

アイドリングストップ機能

JAU76826

アイドリングストップ機能



1. アイドリングストップ表示灯“(A)”

アイドリングストップ機能とは、車両が停止すると、騒音防止、排ガス抑制や燃費向上のため、エンジンが自動的に停止する機能です。

少しスロットルグリップを回すと、自動的にエンジンが始動して再発進することができます。

JCA23961

注意

駐車するときや乗車しないときは、必ずメインスイッチをオフにしてください。アイドリングストップ機能をオンにしたままにしておくと、バッテリーが消耗し、エンジンが再始動できなくなることがあります。

要 点

- 通常は車両が停止すると同時にエンジンが停止しますが、渋滞路など、10 km/h 未満で走行している場合は、エンジンの停止までに時間がかかることがあります。
- スターターの回転が弱いなど、バッテリーの電圧が低いと思われるときは、アイドリングストップ機能をオンにしないでください。販売店でバッテリーの点検を受けてください。

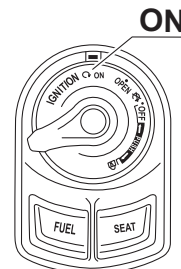
JAU76671

アイドリングストップの操作手順と作動

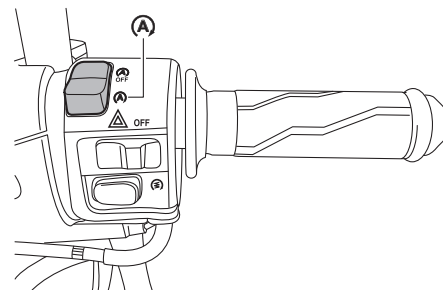
JAU76687

アイドリングストップの起動

1. メインスイッチをオンにします。



2. アイドリングストップスイッチを“(A)”の位置にします。



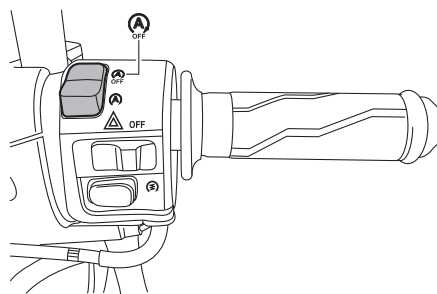
アイドリングストップ機能

3. 以下の条件を満たすと、アイドリングストップが起動してアイドリングストップ表示灯“(A)”が点灯します。
- アイドリングストップスイッチを“(A)”の位置にする。
 - エンジン暖機後に、一定時間アイドリング運転する。
 - 10 km/h を越える速度で走行する。



1. 点灯

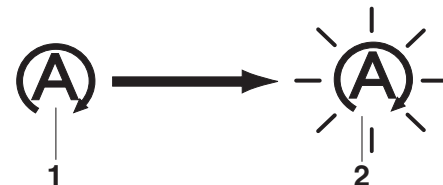
4. アイドリングストップ機能をオフにしたい場合は、アイドリングストップスイッチを“(A)”の位置にします。



要 点

- バッテリーを保護するため、アイドリングストップが起動しない場合があります。
- アイドリングストップが起動しない場合は、販売店でバッテリーの点検を受けてください。

このとき、アイドリングストップ表示灯“(A)”が点灯から点滅に変わり、エンジンがアイドリングストップの状態であることを示します。



1. 点灯
2. 点滅

4

JAU76704

エンジンを再始動する

アイドリングストップ表示灯“(A)”が点滅しているとき、グリップを回すとエンジンが自動的に再始動し、点滅していた“(A)”表示灯が消灯します。

アイドリングストップによるエンジン停止

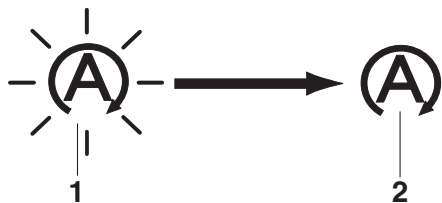
JAU76832

以下の条件を満たすと、エンジンが自動的に停止します。

- アイドリングストップスイッチを“(A)”の位置にする。
- アイドリングストップ表示灯“(A)”が点灯している。
- 車両が停止した状態でスロットルグリップが完全に戻っている。

アイドリングストップ機能

JWA18751



4

1. 点滅
2. 消灯

JWA18731

警告

アイドリングストップ機能がオンの状態でエンジンが停止しているとき、急激なスロットル操作をしないでください。エンジン始動後、車両が急発進するおそれがあります。



要点

- サイドスタンドを下ろすと、アイドリングストップ機能がキャンセルされます。
- アイドリングストップ機能が正常に作動しない場合は、ヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

JAU76711

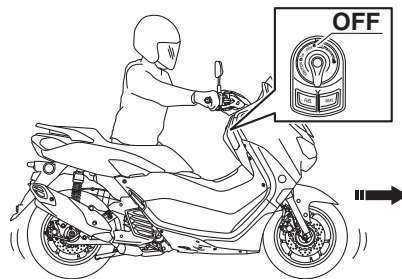
アイドリングストップ機能使用時の注意

誤った操作による事故を防ぐため、以下の警告をよく読み、正しい取り扱いをしてください。

JWA18741

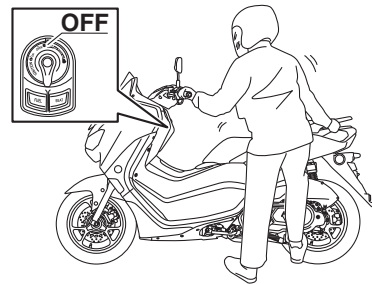
警告

車両を押して歩くときは、必ずメインスイッチをオフにしてください。アイドリングストップ機能がオンの状態で車両を押していると、誤ってスロットルグリップを回してエンジンが始動してしまい、車両が発進するおそれがあります。



警告

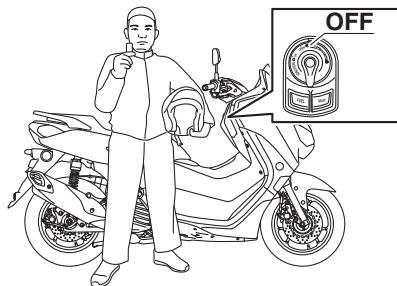
メインスタンドを立てるときは、必ずメインスイッチをオフにしてください。アイドリングストップ機能がオンの状態でメインスタンドを立てると、誤ってスロットルグリップを回してエンジンが始動してしまい、車両が発進するおそれがあります。



JWA18771

警告

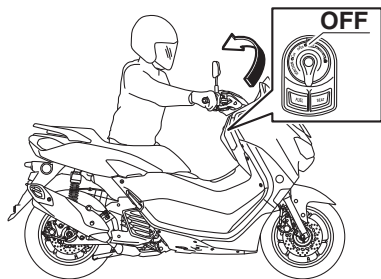
- 車両から離れるときは、必ずメインスイッチをオフにしてください。
- アイドリングストップ機能がオンの状態で駐車しないでください。誤ってアクセルグリップを回したとき、エンジンが始動してしまい、車両が発進するおそれがあります。



JWA18781

⚠ 警告

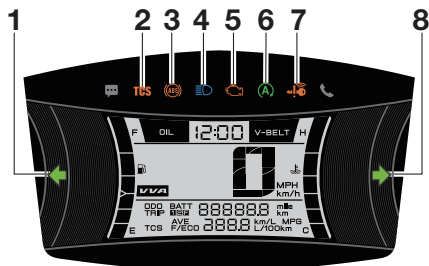
点検整備をするときは、必ずメインスイッチをオフにしてください。アイドリングストップ機能がオンの状態で点検整備を行うと、スロットル操作でエンジンが始動してしまい、車両が発進するおそれがあります。



各部の取り扱いと操作

警告灯と表示灯

JAU4939Y



1. 方向指示器表示灯 (左) “”
2. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
3. ABS 警告灯 “”
4. ヘッドライト上向き表示灯 “”
5. エンジン警告灯 “”
6. アイドリングストップ表示灯 “”
7. スマートキーシステム表示灯 “”
8. 方向指示器表示灯 (右) “”

方向指示器表示灯 “” / “”
方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88900

ヘッドライト上向き表示灯 “”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU88910

エンジン警告灯 “”

JAU88920

エンジンや車両制御の電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

ABS 警告灯 “”

JAU88890

車両の電源をオンにするとABS警告灯が点灯し、走行し始めると消灯します。走行中に警告灯が点灯した場合、ABS が正しく機能しない可能性があります。

JWA16043

警告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- 急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。
- 直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

要 点

メインスタンドを立てた状態でエンジンの回転を上げると、ABS 警告灯が点灯することがあります。

JAU88931

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

トラクションコントロールシステムが作動すると点滅し、オフになると点灯します。(5-10 ページを参照)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU2772

スマートキーシステム表示灯 “”

スマートキーシステムが正常に作動している場合、この表示灯は消灯しています。スマートキーシステムにエラーがある場合や車両とスマートキーが通信しているとき、またはスマートキーに関連する操作が行われたとき、この表示灯は点滅します。

警告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

表示単位切り替え

キロメートルとマイルの単位を切り替えることができます。

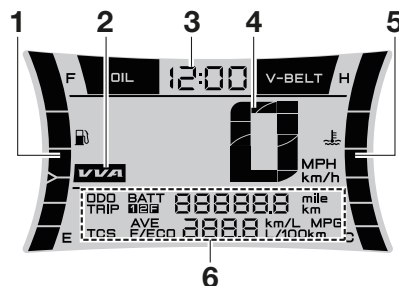
表示単位の切り替えかた

1. 車両の電源をオフにします。
2. “MENU” スイッチを押しながら、車両の電源をオンにします。
3. “MENU” スイッチを表示が単位切り替え設定画面に切り替わるまで約5秒間押し続けます。
4. “MENU” スイッチを押すと、“km” と “km/L” → “km” と “L/100km” → “mile” と “MPG” の順で単位が切り替わります。
5. “MENU” スイッチを長押しして単位を決定します。

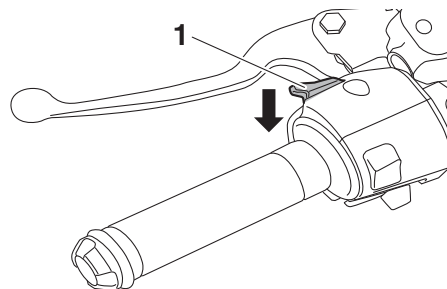
要 点

走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

マルチファンクションメーター



1. 燃料計
2. VVA (可変バルブ機構) 表示
3. 時計
4. スピードメーター
5. 水温計
6. マルチファンクションディスプレイ



1. メニュースイッチ “MENU”

要 点

走行中、スマートキーが検知できない場合（スマートキーがポケットから落ちた場合や、強い電波、ノイズのある場所にある場合など）も、スマートキーシステム表示灯が点滅します。スマートキーの場所と状態を確認してください。

アイドリングストップ表示灯 “A”

アイドリングストップが起動すると点灯し、エンジンが自動的に停止すると点滅します。

要 点

アイドリングストップスイッチを “A” の位置にしても、表示灯が点灯しない場合があります。（4-1 ページ参照）

各部の取り扱いと操作

スピードメーター

車の速度を示します。

JAU86831

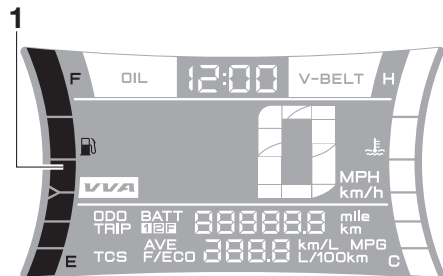
JCAE0121

注意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

JAU86842

燃料計



1. 燃料計

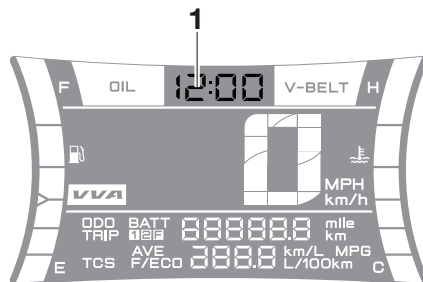
フューエルタンク内の燃料残量を表示します。残量が減ると、燃料計のセグメントが“F”（満）から“E”（空）の方向に消灯していきます。残量が約 1.7 L になると、最後のセグメントが点滅を始めます。早めに補給してください。

要 点

燃料計の電気回路に異常が検出された場合、燃料計のすべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に車の点検を依頼してください。

時計

JAU86852



1. 時計

この時計は 12 時間表示です。

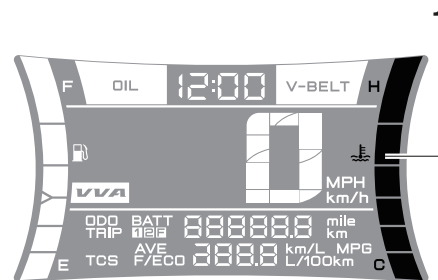
時刻調整のしかた

1. “ODO” と “F/ECO” を表示させた状態で、“MENU” スイッチを＜時＞の表示が点滅するまで押します。
2. “MENU” スイッチを使用して＜時＞を設定します。
3. “MENU” スイッチを＜分＞の表示が点滅するまで押します。
4. “MENU” スイッチを使用して＜分＞を設定します。

5. “MENU” スイッチを＜分＞の点滅が止まるまで押します。

JAU86860

水温計



1. 水温計

冷却水の温度を表示します。温度が上がると水温計のセグメントが“C”（冷）から“H”（熱）方向に増えていきます。一番上のセグメントが点滅した場合、エンジンを止めて冷やしてください。

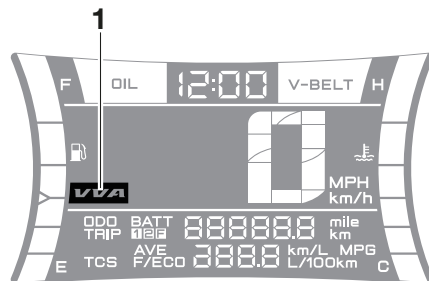
要 点

水温計の電気回路に異常が検出された場合、水温計のすべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に車の点検を依頼してください。

各部の取り扱いと操作

VVA 表示

JAU86870



1. VVA (可変バルブ機構) 表示

この車には、低速域から高速域まで優れた燃費と加速を実現する可変バルブ機構 (VVA) が装備されています。VVA 表示は可変バルブ機構が高速域に切り替わると点灯します。

VVA 表示のオンとオフの切り替えかた

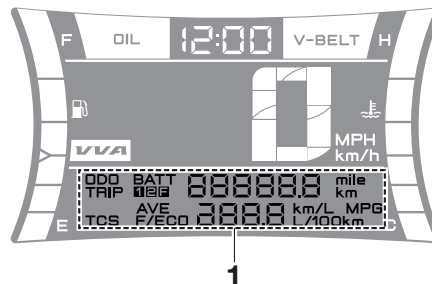
1. 車両の電源をオフにします。
2. “MENU” スイッチを押しながら車両の電源をオンにします。
3. “MENU” スイッチを押し続けると、約 5 秒後に単位切り替え設定画面が表示されます。さらに約 10 秒間スイッチを押し続けると、VVA 表示以外のすべてのセグメントが点滅します。すべてのセグメントが点滅したらスイッチを離します。
4. “MENU” スイッチを押してオンとオフを切り替えます。
5. “MENU” スイッチを長押しして決定します。

要 点

VVA 表示をオフにしても、可変バルブ機構はオフになりません。

マルチファンクションディスプレイ

JAUN2801



1. マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1/TRIP 2)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- エンジンオイルトリップメーター (OIL TRIP)
- エンジンオイル交換表示
- V ベルトトリップメーター (V-BELT TRIP)
- V ベルト交換表示
- 瞬間燃費表示 (F/ECO)
- 平均燃費表示 (AVE F/ECO)
- バッテリー電圧表示 (BATT)

- トラクションコントロールシステム表示 “MENU” スイッチを押すごとに、下記の順で表示が切り替わります。

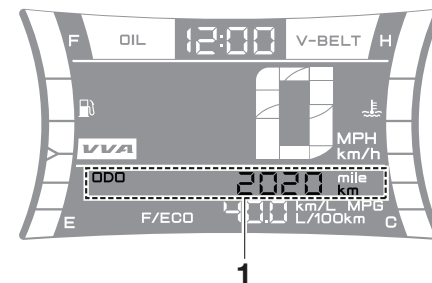
ODO、F/ECO → TRIP 1、AVE F/ECO → TRIP 2、AVE F/ECO → TRIP F → BATT → TCS → OIL TRIP → V-BELT TRIP → ODO、F/ECO

要 点

- 燃料が少なくなると、フューエルトリップメーターが表示されます。
- 走行中はエンジンオイルトリップメーターと V ベルトトリップメーターは表示されません。
- 各トリップメーター (TRIP1 および TRIP2) の平均燃費が表示されます。トリップメーターをリセットすると、そのトリップメーターの平均燃費もリセットされます。

オドメーター

JAU86891



1. オドメーター

各部の取り扱いと操作

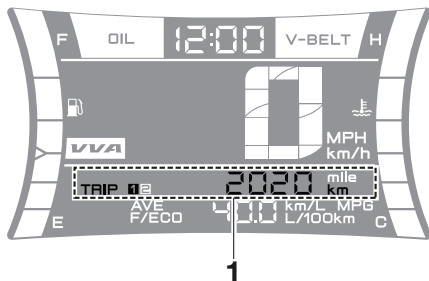
走行した総距離を表示します。

要 点

オドメーターは、最大値 (999999 km) を超えると最大値で固定されます。

トリップメーター

JAU86900



1. トリップメーター

最後にゼロに設定した地点からの走行距離を表示します。

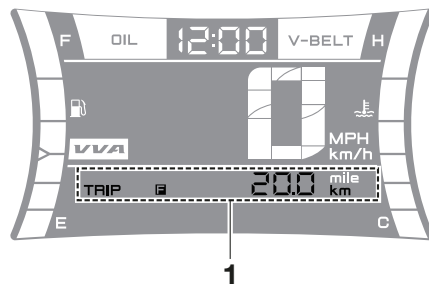
トリップメーターをリセットするには、リセットしたいトリップメーターを表示させ、“MENU”スイッチをリセットされるまで押します。

要 点

トリップメーターは、最大値 (9999.9 km) を超えるとリセットされます。

フューエルトリップメーター

JAU86910



1. フューエルトリップメーター

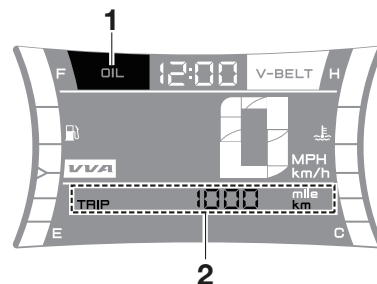
燃料計の最後のセグメントが点滅を始めると、自動的にフューエルトリップメーター“TRIP F”に切り替わり、その地点からの走行距離の計測を始めます。フューエルトリップメーターをリセットするには、“MENU”スイッチをリセットされるまで押します。

要 点

フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にリセットされて表示されなくなります。

エンジンオイルトリップメーター

JAUN3060



1. エンジンオイル交換表示“OIL”
2. エンジンオイルトリップメーター

最後にオイル交換をしてからの走行距離を表示します。初回は 1000 km 走行時、次に 5000 km 走行時、以降は 6000 km 走行するごとに、エンジンオイル交換表示“OIL”が点滅します。

エンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示をリセットするには、エンジンオイルトリップメーターを表示させ、“OIL”とエンジンオイルトリップメーターが点滅するまで“MENU”スイッチを押します。“OIL”とエンジンオイルトリップメーターが点滅している間に、“MENU”スイッチをリセットされるまで押します。

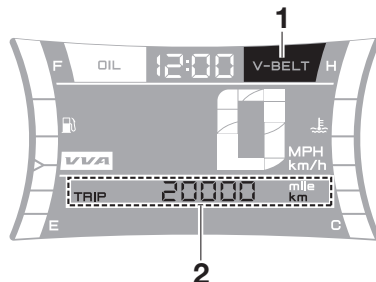
各部の取り扱いと操作

要 点

オイル交換したときは、エンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示をリセットしてください。交換時期がずれてしまいます。

V ベルトトリップメーター

JAUW4880



1. V ベルト交換表示 “V-BELT”
2. V ベルトトリップメーター

最後にVベルトを交換してからの走行距離を表示します。20000 km 走行するごとに、V ベルト交換表示 “V-BELT” が点滅します。V ベルトトリップメーターとVベルト交換表示をリセットするには、V ベルトトリップメーターを表示させ、“V-BELT” と V ベルトトリップメーターが点滅するまで“MENU”スイッチを押します。“V-BELT” と V ベルトト

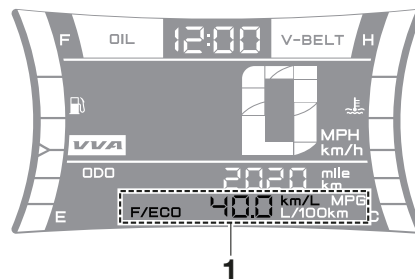
リップメーターが点滅している間に、“MENU”スイッチをリセットされるまで押します。

要 点

V ベルトを交換したときは、V ベルトトリップメーターとVベルト交換表示をリセットしてください。交換時期がずれてしまいます。

瞬間燃費表示

JAU86941



1. 瞬間燃費表示

現在の走行状態における燃費を表示します。“km/L”または“L/100 km”を表示することができます。(5-2 ページ参照)

- “km/L”: 1.0 L の燃料で走行できる距離が表示されます。
- “L/100 km”: 100 km の走行に必要な燃料の量が表示されます。

要 点

- 10 km/h 未満の速度で走行している場合は、“_ _ _”と表示されます。
- “MPG”はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

JAU87790

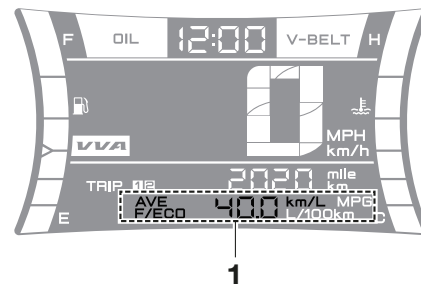
要 点

瞬間燃費は一般的な参照値としてのみ使用してください。この数値から、現在の燃料で走行できる距離を推定しないでください。

5

平均燃費表示

JAU86951



1. 平均燃費表示

各部の取り扱いと操作

最後にリセットした時点からの平均燃費を表示します。“km/L”または“L/100 km”を表示することができます。(5-2 ページ参照)

- “km/L”: 1.0 L の燃料で走行した平均距離が表示されます。
- “L/100 km”: 100 km 走行するために使用した燃料の平均量が表示されます。

要 点

- 平均燃費表示をリセットするは、“MENU”スイッチをリセットされるまで押します。
- 平均燃費表示をリセット後は、ある程度走行するまで“_ _.”と表示されます。
- “MPG”はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

要 点

バッテリーの電圧が 9.0 V 以下の場合は、“_ _.”が表示されます。

盗難警報器（別売アクセサリ）

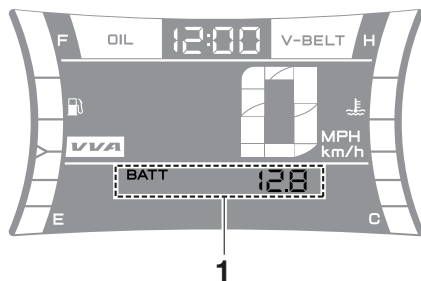
この車には、別売アクセサリの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU12333

5

JAU89220

バッテリー電圧表示



1. バッテリー電圧表示

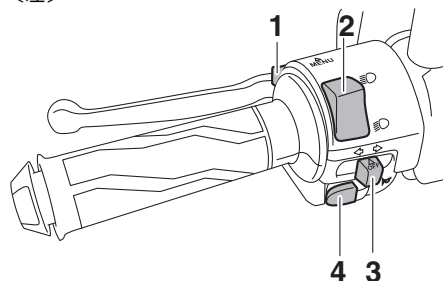
バッテリーの電圧を表示します。

各部の取り扱いと操作

ハンドルスイッチ

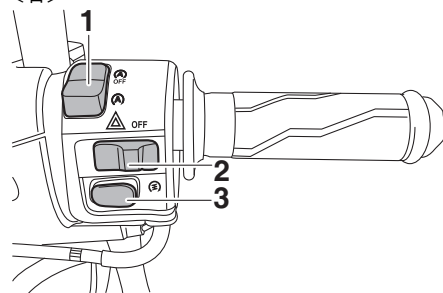
JAU1234T

<左>



1. メニュースイッチ “MENU”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ $\equiv$ 〇/ $\equiv$ 〇”
3. 方向指示器スイッチ “ $\triangleleft$ / $\triangleright$ ”
4. ホーンスイッチ “ H ”

<右>



1. アイドリングストップスイッチ “ A / A ”
2. ハザードスイッチ “ $\triangle$ ”
3. スタータースイッチ “ S ”

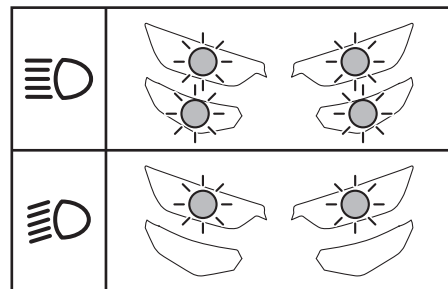
ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ $\equiv$ 〇/ $\equiv$ 〇”

JAU12402

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

$\equiv$ 〇 (上向き)：遠くを照らします。

$\equiv$ 〇 (下向き)：近くを照らします。



要 点

先行车や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

方向指示器スイッチ “ $\triangleleft$ / $\triangleright$ ”

JAU12461

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

$\triangleright$ ：右側の方向指示灯が点滅します。

$\triangleleft$ ：左側の方向指示灯が点滅します。

警告

JWA11641

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

5

ホーンスイッチ “ H ”

JAU12501

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

スタータースイッチ “ S ”

JAU12722

サイドスタンドを上げた状態で、リヤブレーキレバーを握りながらこのスイッチを押すと、スターターモーターが回転しエンジンが始動します。

JCA11882

注意

- スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

各部の取り扱いと操作

- エンジンを始動させる前に、7-1 ページの始動手順を参照してください。

ハザードスイッチ “△”

JAU79500

車両の電源をオンにした状態で、スイッチを“△”にスライドし、ハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

メニュースイッチ “MENU”

JAU54232

このスイッチは、マルチファンクションメーターの設定を行うときに使用します。（5-2 ページ参照）

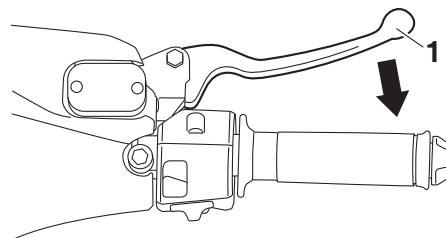
アイドリングストップスイッチ “ ”

JAU76391

アイドリングストップ機能をオンにするには、スイッチを“ ”の位置にします。オフにするには、スイッチを“ ”の位置にします。

フロントブレーキレバー

JAU12902

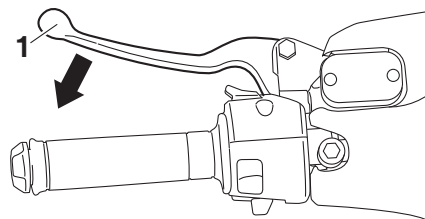


1. フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

リヤブレーキレバー

JAU12952



1. リヤブレーキレバー

リヤブレーキレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。リヤブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

ABS

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、フロントブレーキとリヤブレーキで、それぞれ独立して働きます。

JAU90180

JWA15363

警告

- **ABS** は制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、**ABS** のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。

ブレーキの使いかた

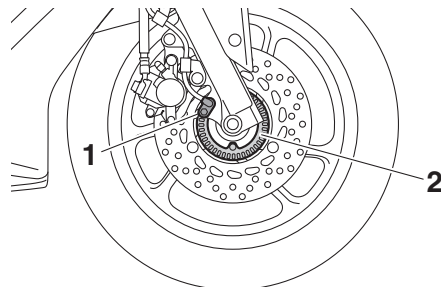
通常のブレーキと同様に、ブレーキレバーを操作します。ブレーキをかけたとき、ホイールスリップが検知されると **ABS** が作動し、ブレーキレバーに振動を感じます。そのままブレーキをかけ続けてください。制動距離が伸びるため、ブレーキを握ったり放したりしないでください。

- エンジン始動後、走行を始めたときに **ABS** は自己診断を行います。この間にハイドロリックユニットからカチカチ音が聞こえたり、ブレーキレバーに振動を感じたりしますが、故障ではありません。
- **ABS** が故障すると、通常のブレーキシステムとなります。

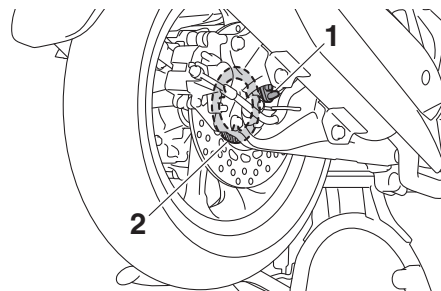
注意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。**ABS** の性能が低下するおそれがあります。

JCA20100



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムは、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムにより、スリップ状態が回復するまでエンジン出力を制御します。トラクションコントロールが有効になると、“**TCS**”表示灯が点滅します。

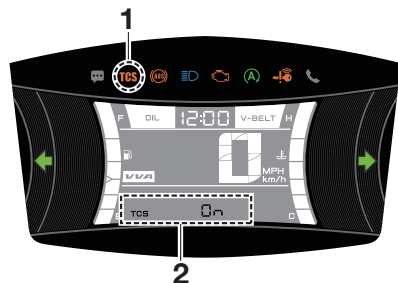
JWA15433

警告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車両と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

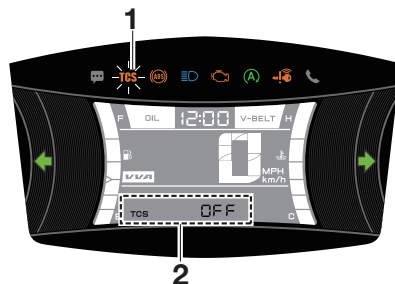
各部の取り扱いと操作

トラクションコントロールシステムの設定



1. トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”
2. トラクションコントロールシステム表示

車両の電源が ON になると、トラクションコントロールも自動的に ON になります。トラクションコントロールシステムを OFF するには、メニュースイッチ“MENU”を使用して、マルチファンクションディスプレイをトラクションコントロールシステム表示に変更します。メニュースイッチを 3 秒押すと“TCS OFF”が表示され、“TCS”表示灯が点灯します。



1. トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”
2. トラクションコントロールシステム表示

要 点

車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったとき、トラクションコントロールシステムを OFF にすると、抜け出しやすくなる場合があります。

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(8-9 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムのリセット

トラクションコントロールシステムは、センサーの故障が検知されたとき、片方の車輪のみが回転したときなどに、自動的に OFF になります。この場合、“TCS”表示灯が点灯するほか、“”警告灯も点灯することがあります。



1. トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”
2. エンジン警告灯“”

要 点

メインスタンドがかかっている場合は、過剰にエンジンを回転させないでください。トラクションコントロールシステムが自動的に OFF になり、リセット操作が必要になります。

トラクションコントロールシステムが自動的に OFF になった場合は、次のようにリセット操作をしてください。

1. 車両を停車させ、電源を OFF にします。
2. 数秒後、車両の電源を ON にします。

3. “TCS” 表示灯が消灯し、システムが ON になります。

要 点

リセット操作後も“TCS”表示灯が点灯したままの場合は、乗車は可能ですが、速やかにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

4. ヤマハ販売店で車両の点検を受け、“” 警告灯を消灯してもらいます。

フューエルタンクキャップ

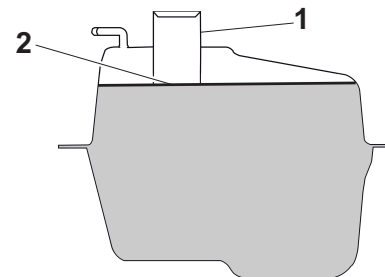
JAU92500

JWA12172

警告

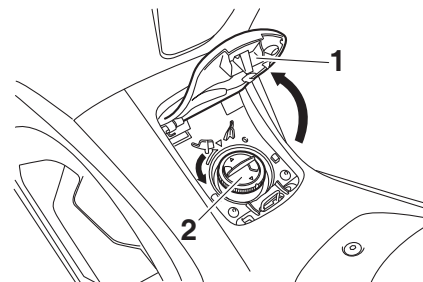
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクに給油するには、フューエルタンクキャップリッドを開けます。(3-7 ページ参照)

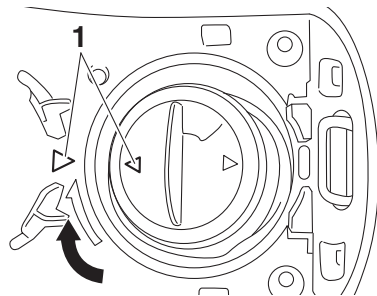


1. フューエルタンクキャップリッド
2. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを反時計回りに回し、キャップを取り外します。

各部の取り扱いと操作

キャップを取り付けるには、フューエルタンクキャップを給油口に挿入し、キャップ側の“△”マークと車体側の“▽”マークが合う位置まで時計方向に回します。



1. “△”マーク

燃料

JAU31461

指定燃料

JAU28313

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 7.1 L

JCA12512

注意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

シート

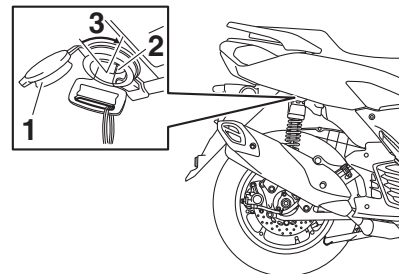
JAU89400

シートの開けかた

メインスイッチを使用する場合
メインスイッチを OPEN にし、“SEAT” ボタンを押します。(3-7 ページを参照)

メカニカルキーを使用する場合

1. シートロックカバーを開けます。



1. シートロックカバー
2. シートロック
3. 解除

2. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。
3. シート後部を持ち上げます。

JCA24020

JAU37482

JAU28521

注意

メカニカルキーを使用しないときはシートロックカバーを開めてください。

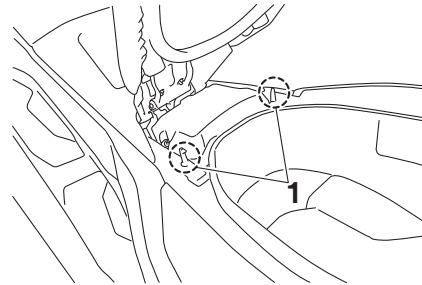
シートの閉めかた

シートを下ろし、シート後部を押さえてロックします。

要点

走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーはシートの下にあります。
ヘルメットのあごひもの金具部分を掛け、シートを閉めます。

JWA11651



ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

書類入れ

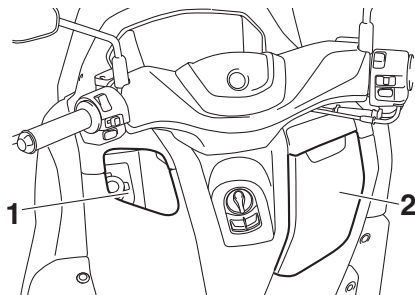
メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、トランク内に保管してください。

各部の取り扱いと操作

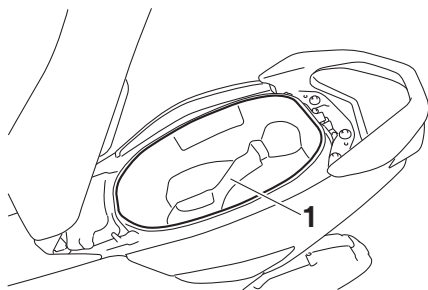
JAUN2612

小物入れとトランク

以下の位置に小物入れ2つとトランクがあります。



- 1. 小物入れ A
- 2. 小物入れ B



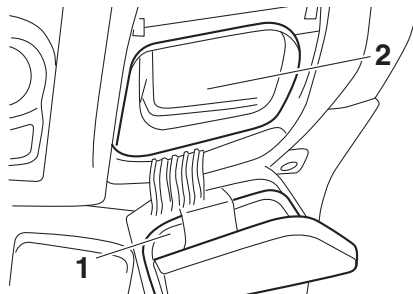
- 1. トランク

要 点

ヘルメットのサイズや形状によっては、トランクに収納できないものもあります。

小物入れ B

小物入れ B を開けるときは、リッドを引きロックを解除してから開けます。



- 1. リッド
- 2. 小物入れ B

閉めるときはリッドを押して元の位置に戻します。

トランク

トランクを開けるときは、メインスイッチを OPEN にし、“SEAT” ボタンを押します。(3-7 ページを参照)

要 点

車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。

JCA15964

注 意

- シートは長時間開けたままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。
- 洗車をする中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。
- 貴重品やこわれやすい物は入れないでください。
- トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。

JWA20590

⚠ 警 告

以下の荷重制限を越えないでください。

- 小物入れ A: 1.5 kg
- 小物入れ B: 0.3 kg
- トランク : 5.0 kg

JAUN3020

リヤクッションの調整

リヤクッションにはスプリングプリロードアジャスターが装備されています。

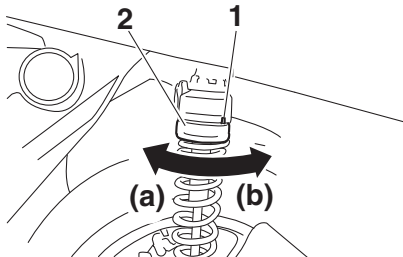
JWA10211

⚠ 警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなります。プリロードアジャスターを(b)方向に回すと、スプリングプリロードが小さくなります。アジャスターの番号(1 または 2)を、リヤクッションのインジケーターに合わせます。



- 1. インジケーター
- 2. スプリングプリロードアジャスター

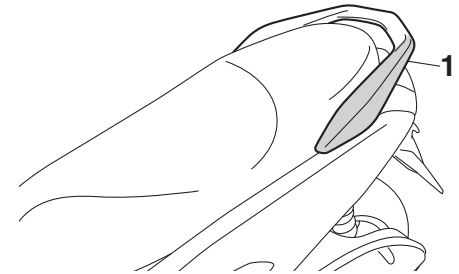
スプリングプリロード：

- 1：標準
- 2：最大（ハード）

JAU29911

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。

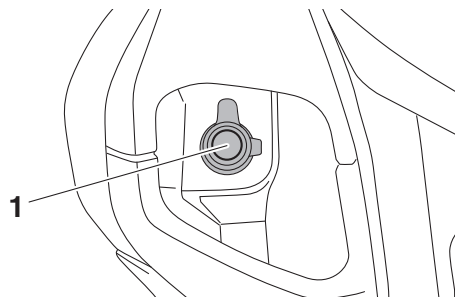


1. スタンディングハンドル

各部の取り扱いと操作

JAUN2162

パワーアウトレット



1. パワーアウトレットキャップ

パワーアウトレットは小物入れAの中にあります。
パワーアウトレットに接続した12Vのアクセサリは、エンジンを始動した状態で使用します。

JCAN0140

注意

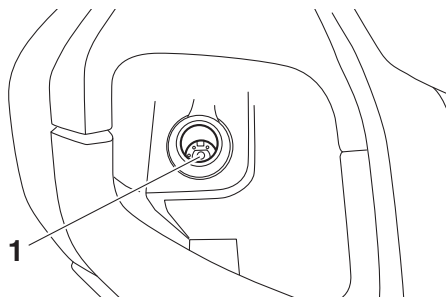
パワーアウトレットに接続するアクセサリは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が12W (1 A) を決して超えないようにしてください。ヒューズ切れや、バッテリーあがりを起こす可能性があります。

洗車時にはパワーアウトレットに直接水をかけないようにしてください。

パワーアウトレットの使いかた

1. メインスイッチを OFF にします。

2. パワーアウトレットキャップを取り外します。
3. アクセサリをオフにします。
4. アクセサリのプラグをパワーアウトレットに差し込みます。



1. パワーアウトレット

5. メインスイッチを ON にし、エンジンを始動します。(7-1 ページ参照)
6. アクセサリをオンにします。

JWAN0050

警告

感電または短絡を防止するため、パワーアウトレットを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JAU70642

DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。

コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242



警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU62310

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム(サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む)には次の機能があります。

- サイドスタンドが上がっているが、どちらかのブレーキレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げると、エンジンは停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11552



警 告

- 点検中はメインスタンドを立ててください。
- 点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. メインスイッチをONにします。
3. ブレーキレバーを握ります。
4. スタータースイッチを押します。
エンジンが始動しましたか？

いいえ はい

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した状態のまま：
5. サイドスタンドを上げます。
6. ブレーキレバーを握ります。
7. スタータースイッチを押します。
エンジンが始動しましたか？

はい いいえ

ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
8. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい いいえ

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JAU1559B

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

JAU30173

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

運転操作

ならし運転

JAU31471

ならし運転のしかた

JAU27744

車を長持ちさせるために、ならし運転を行ってください。

乗りはじめてから約1か月間(または1000km走行まで)は、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。

エンジン始動

JAU62320

JWA11562



警告

- エンジンを始動するときには、5-18 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

JCA11921

注意

初めて車両を運転する前に、7-1 ページのならし運転のしかたを参照してください。

要点

サイドスタンドを下ろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを ON にします。
3. スロットルを完全に閉じます。
4. リヤブレーキレバーをしっかりと握り、スタータースイッチを押して、エンジンを始動させます。

要点

スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA16661

注意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

発進

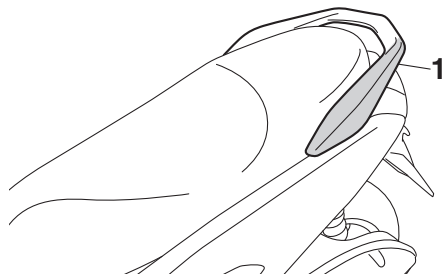
JAU45093

JWA12261

⚠ 警告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



1. スタンディングハンドル

JWA12271

⚠ 警告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。

3. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
4. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281

⚠ 警告

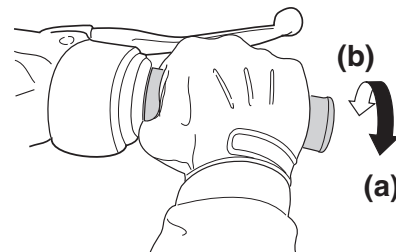
スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

5. 方向指示器を消灯します。

加速と減速

JAU16783

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



7

JCA12682

注意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯する恐れがあります。

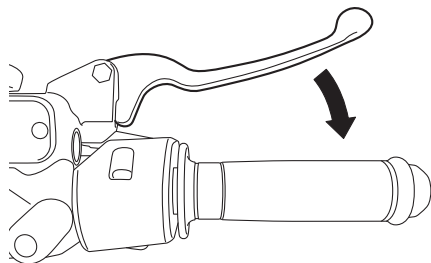
運転操作

JAU16794

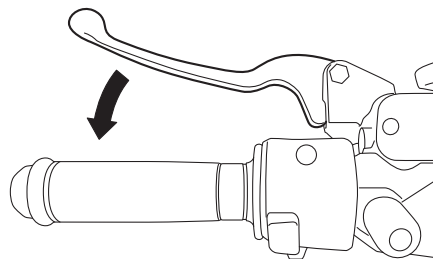
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JAUW4892

駐車

駐車するときは、車両の電源をオフにしてください。

車から離れるときは、スマートキーを携行してください。

また盗難予防のため、ハンドルロックをかけることをおすすめします。

要点

- この車両は、バッテリーあがりや盗難を防ぐため、エンスト放置警告機能を装備しています。サイドスタンドを出してエンジンを停止したあと、車両の電源をオンにしたまま放置すると、アラームが鳴って運転者にお知らせする機能です。
- エンスト放置警告機能は無効にすることができます。ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA18840

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

- アイドリングストップ機能をオンにしたまま放置すると、バッテリーが消耗し、エンジンが再始動できなくなることがあります。

要 点

お店のガラス越しや家の塀越しなどの隔てた場所に駐車した場合でも、車がスマートキーシステムの作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない他の人でもエンジンの始動や、シートの開閉、フューエルタンクキャップリッドの開閉、ハンドルロックの解除が可能になります。このようなときは、スマートキーをロックの状態にしてください。(スマートキーのロック／アンロック切替操作方法は、3-4 ページを参照してください)

点検整備

点検整備の実施

JAU29839

日常点検

6-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

⚠ 警告

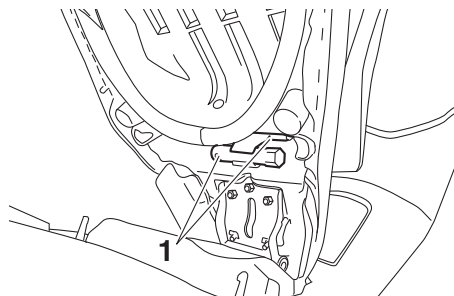
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じて買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU85230



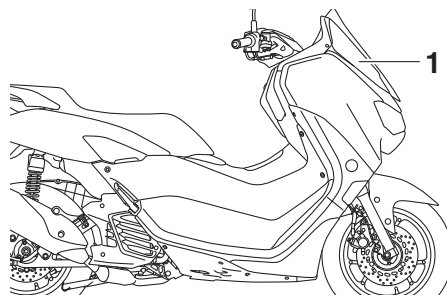
1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。

カバーの取り外し、取り付け

JAU18752

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



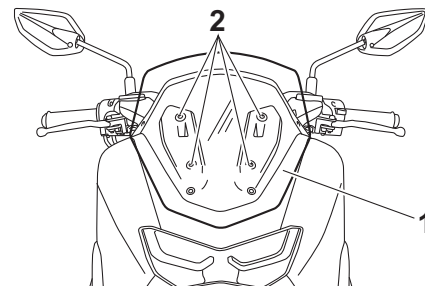
1. カバー A

カバー A

JAU92520

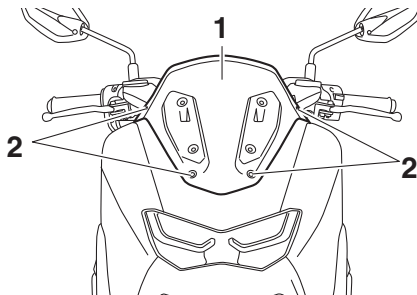
カバーの取り外しかた

1. スクリューを外し、ウインドシールドを取り外します。



1. ウインドシールド
2. スクリュー

2. スクリューを外し、カバーを取り外します。



1. カバー A
2. スクリュー

カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。

2. ウインドシールドを元の位置に取り付け、スクリューを締め付けます。

エンジンオイル

JAU30306

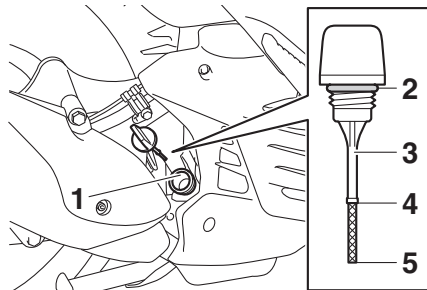
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立てます。(車を垂直にする) 2～3分後、オイルが安定してからオイルレベルゲージを外します。レベルゲージ部をきれいにふいてオイル注入口に(ねじ込まないで)差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。



1. オイル注入口
2. Oリング
3. オイルレベルゲージ
4. フルレベル
5. ロアレベル

要 点

オイル量がフルレベルとロアレベルの間にあれば適切です。

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、9-3 ページ参照)
4. Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。
5. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、確実に締めます。

JAU70750

エンジンオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目：

6000 km 時

3 回目以降：

6000 km 走行ごと、または 1 年ごと

エンジンオイル量：
0.90 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

警告

JWA11861

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12261

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

要 点

- エンジンオイル交換表示“OIL”は回路の確認のため、走行距離に関係なくメインスイッチを ON にすると一旦表示されます。
- エンジンオイル交換表示“OIL”が点滅したら、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、エンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示をリセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。（5-2 ページ参照）

ファイナルギヤオイルの交換時期

JAU30664

初回：
1 か月点検時または 1000 km 走行時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと
定期交換時オイル量：
0.10 L
推奨オイル：
ヤマルーブ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

JAU30691

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

点検整備

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱい切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷がないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531



警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして

点検します。このとき、エンジnstール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

JAU20071

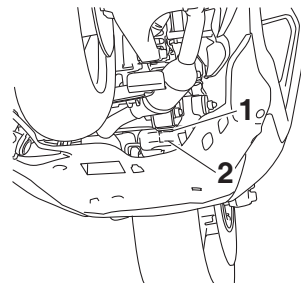
冷却水量の点検

JAU30723

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. フルレベル

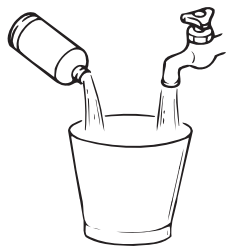
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。



冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルまで補充します。

要 点

冷却水の補充は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

1. 右側のフットボードマットを取り外します。

JWA11882

警告

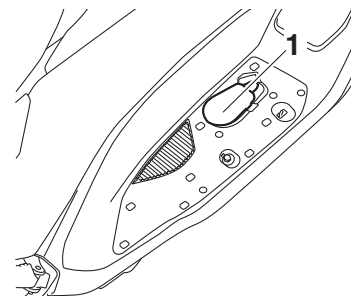
クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

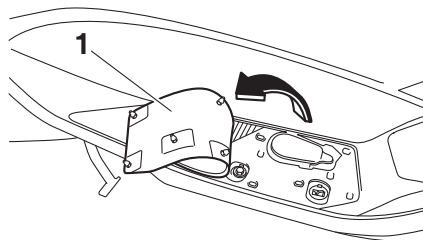
注意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。



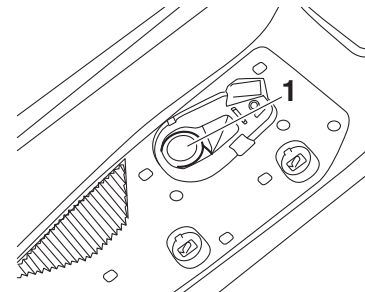
1. リカバリータンクカバー

3. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルまで補充します。



1. フットボードマット

2. リカバリータンクカバーを取り外します。



1. リカバリータンクキャップ

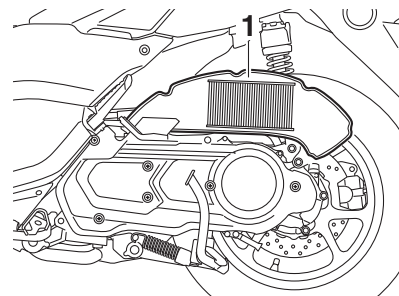
4. リカバリータンクキャップを取り付けます。
5. リカバリータンクカバー、フットボードマットを取り付けます。

注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エアクリーナーエレメント、Vベルトフィルターエレメント

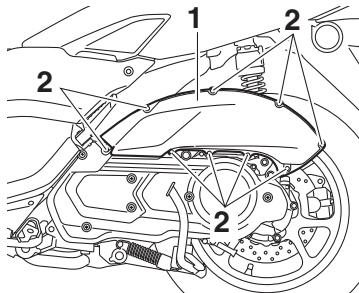
エアクリーナーエレメントは 20000 km 走行ごとに交換してください。V ベルトフィルターエレメントは 10000 km 走行ごとに点検、清掃してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、上記よりも短い距離で交換または点検、清掃を行ってください。



1. エアクリーナーエレメント

エアクリーナーエレメントの交換

1. メインスタンドを立てます。
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー

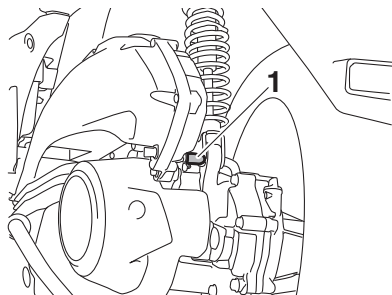
3. エアクリーナーエレメントを取り外します。

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

注意

- エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。
- エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。

ブローパイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

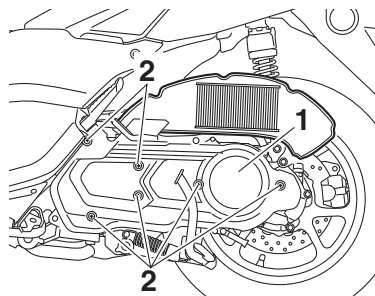


1. ブローパイガス還元装置のブリーザードレンホース

1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

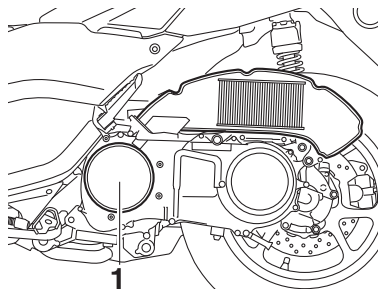
V ベルトフィルターエレメントの清掃

1. メインスタンドを立てます。
2. スクリューを外し、V ベルトフィルターケースカバーを取り外します。



1. V ベルトフィルターケースカバー
2. スクリュー

3. V ベルトフィルターエレメントを取り外します。



1. V ベルトフィルターエレメント

4. V ベルトフィルターエレメントをきれいな灯油で洗浄し、軽くしぼります。

⚠ 警告

ガソリンや引火性の高い洗浄剤は引火のおそれがありますので、使用しないでください。

5. 布切れなどでVベルトフィルターエレメントを包み、乾かします。
6. Vベルトフィルターエレメントの損傷を点検します。損傷している場合は交換します。
7. ヤマラーブフィルターオイルをVベルトフィルターエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。
8. VベルトフィルターエレメントをVベルトフィルターケースに取り付けます。

JCA13031

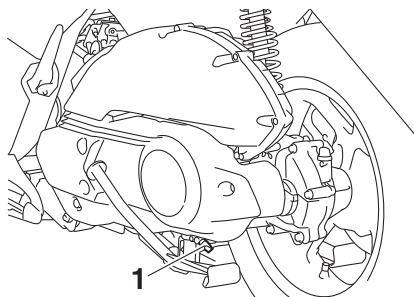
注意

V ベルトフィルターエレメントは確実に装着してください。

9. Vベルトフィルターケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

点検整備

Vベルトケースチェックホースの清掃

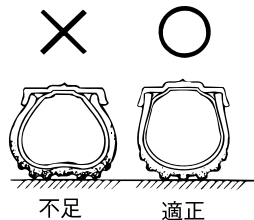


1. Vベルトケースチェックホース

1. V ベルトケースチェックホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。
2. 汚れや水があった場合は、Vベルトケースチェックホースを取り外して清掃し、元に戻します。

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。

JAU65360

タイヤ空気圧（冷間時）：

1名乗車：

前輪：150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)

要 点

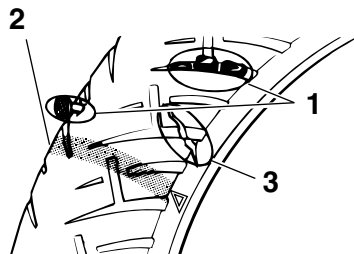
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
110/70-13M/C 48P

後輪：
130/70-13M/C 63P

指定タイヤ：

前輪：
DUNLOP/SCOOT SMART L

後輪：
DUNLOP/SCOOT SMART L

点検整備

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

JAU29162

ブレーキレバーの遊びの点検

フロントブレーキ、リヤブレーキとも、ブレーキレバーの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11751



警告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

8

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761



警告

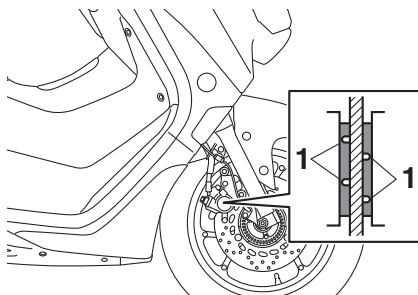
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

ブレーキパッドの点検

JAU29601

ブレーキパッドの摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

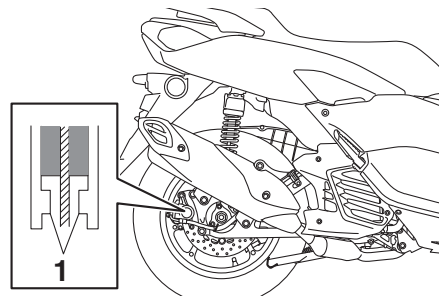
＜フロントブレーキ＞



1. インジケーター溝

ブレーキパッドのインジケーター溝がなくなったら交換してください。

＜リヤブレーキ＞

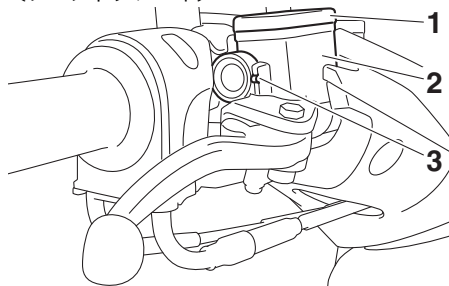


1. インジケーター

ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら交換してください。

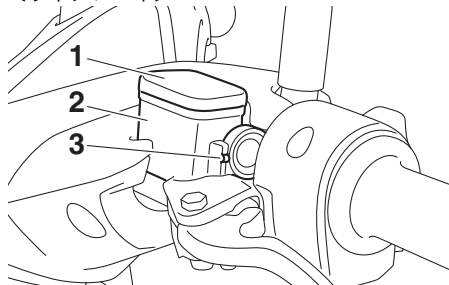
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. リザーバタンク
3. ロアレベル

<リアブレーキ>



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. リザーバタンク
3. ロアレベル

JAU44233

ブレーキリザーバタンクキャップ上面を水平にして、リザーバタンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

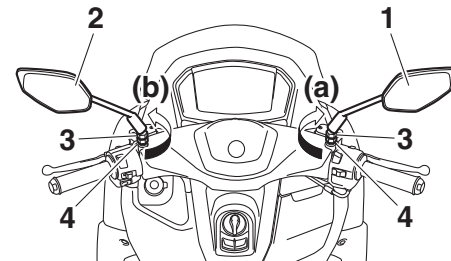


- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラー取り付けアダプターのボルト部は左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けアダプターを時計回り (a) 方向に回します。
- 左バックミラー取り付けアダプターのボルト部は右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けアダプターを反時計回り (b) 方向に回します。



1. 右バックミラー
2. 左バックミラー
3. バックミラー取り付けナット
4. バックミラー取り付けアダプター

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要 点

- 右バックミラー取り付けナットは、右ネジです。
- 左バックミラー取り付けナットは、左ネジです。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

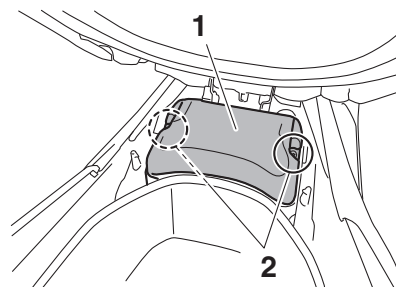
注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU29201

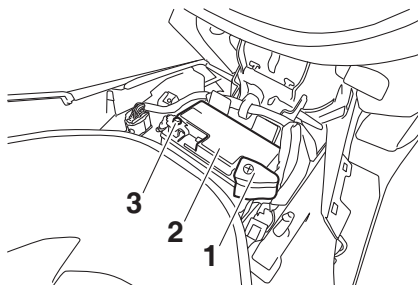
バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シートを開けます。(5-13 ページ参照)
3. スクリューを外し、バッテリーカバーを取り外します。



1. バッテリーカバー
2. スクリュー

4. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



1. + リード線
2. バッテリー
3. - リード線

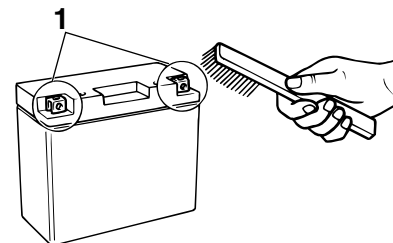
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

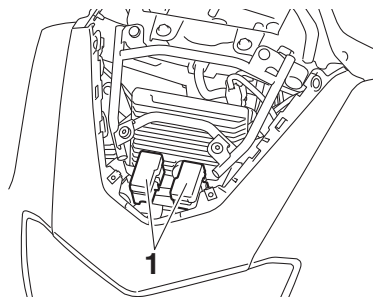
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



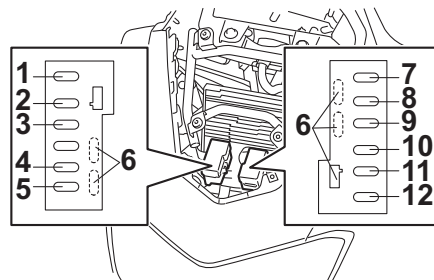
1. ターミナル

ヒューズ交換

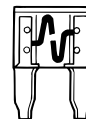
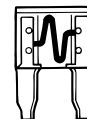
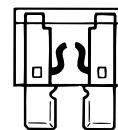
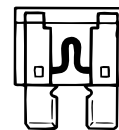
系統別ヒューズボックスは、カバー A を外したところにあります。(8-2 ページ参照)



1. ヒューズボックス



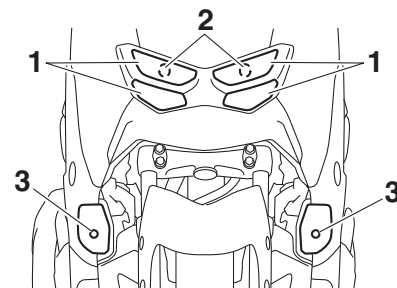
1. シグナルヒューズ
2. ターミナルヒューズ (パワーアウトレット)
3. スマートキーシステムヒューズ
4. ABS モーターヒューズ
5. ABS ソレノイドヒューズ
6. スペアヒューズ
7. フューエルインジェクションヒューズ
8. バックアップヒューズ
9. メインヒューズ
10. イグニッションヒューズ
11. ヘッドライトヒューズ
12. ABS コントロールユニットヒューズ



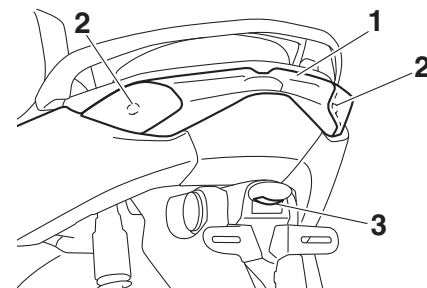
ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチをオフにします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

灯火装置および方向指示灯の点検



1. ヘッドライト
2. マーカーランプ
3. 方向指示灯（前）



1. ブレーキ/テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。

規定ヒューズ：

メイン：

30.0 A

イグニッション：

7.5 A

スマートキーシステム：

2.0 A

シグナル：

7.5 A

ヘッドライト：

7.5 A

ターミナル：

5.0 A

ABS モーター：

30.0 A

ABS ソレノイド：

15.0 A

ABS コントロールユニット：

2.0 A

バックアップ：

7.5 A

フューエルインジェクション：

7.5 A

- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

3. メインスイッチをオンにし、ヒューズ交換した装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JCA12862

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。

2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検 (8-15 ページを参照) し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの (10-1 ページ「製品仕様」を参照) を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU29571

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. 車両の電源はオンになっていますか？
2. ガソリンはありますか？
燃料計にてガソリン量を確認してください。
燃料計の最後のセグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？
5. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから、7-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. 車両の電源はオンになっていますか？
2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・

- ヒューズ切れが考えられます。8-15 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で確認してください。

1. 車両の電源がオンになっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. エンジンは始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・

- ヒューズ切れが考えられます。8-15 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」のページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（10-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の最後のセグメントが点滅しているときは、フューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
上記のことを確認してから、7-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示 “V-BELT” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。

交換後、リセット操作をすると V ベルト交換表示は消灯します。

JCA12531

注意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

走行中、エンジンオイル交換表示 “OIL” が点滅したときは？

早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。（推奨エンジンオイルについては、9-3 ページ参照）

交換後、リセット操作をするとエンジンオイル交換表示は消灯します。

JCA12311

注意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

走行中、ABS 警告灯 “(S)” が点灯または点滅したときは？

ブレーキシステムは通常のブレーキの状態になっています。急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけて、直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

スマートキーシステムが作動しないときは？

スマートキーシステムが作動しないときは、次の項目を確認してください。

- スマートキーがロックの状態になっていませんか？ 3-4 ページを参照して、スマートキーをアンロック状態に切り替えてください。
- スマートキーの電池が消耗していませんか？ 車両の電源をオンする時にスマートキーシステム表示灯が約 20 秒点滅したときは、電池を交換してください。（3-5 ページ参照）
- 強い電波やノイズのある場所などで使用していませんか？ スマートキーシステムは微弱な電波を使用しています。スマートキーシステムの作動を妨げる具体的な例については 3-1 ページを参照してください。
- スマートキーに電池が入っていない、または電池が正しく取り付けられていない状態ではないですか？ 電池の取り付け状態を確認してください。（3-5 ページ参照）

点検整備

● 車に登録されている、専用のスマートキーを使用していますか？車に登録された専用のスマートキーを使用しないと、スマートキーシステムは作動しません。登録されている、専用のスマートキーを使用してください。

● 壊れたスマートキーを使用していませんか？3-2 ページを参照してください。壊れたスマートキーを使用した場合、スマートキーシステムは作動しません。

● バッテリーがあがっていませんか？バッテリーの電圧が低下しているか、バッテリーがあがっていると通信不良の原因になります。バッテリーを充電するか、交換してください。スマートキーシステムが作動しないときのバッテリー交換方法については、8-13 ページを参照してください。

以上のことを確認してもスマートキーシステムが作動しない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

スマートキーを使わずにエンジンを始動する方法については、8-20 ページのエマージェンシーモードを参照してください。メカニカルキーを使用してシートのロックを解除する方法については、5-13 ページを参照してください。

エンジンが停止し、「ピピピピッ...」とアラームが鳴ったときは？

故障ではありません。

エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止し、上記のアラームが約 1 分間鳴ります。

JCA22550

注意

サイドスタンドを出してエンジンを停止させたときは、必ず車の電源をオフにしてください。オンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。

要点

上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

アイドリングストップ表示灯が点灯しないときは？

1. メインスイッチがオンになっていますか？
2. アイドリングストップスイッチを“(A)”にしていますか？
3. エンジン始動後、十分に暖機運転をしましたか？
4. エンジン暖機後、一定時間アイドリング運転をしましたか？
5. 10 km/h 以上の速度で走行しましたか？

上記を満たしても、バッテリー保護のためアイドリングストップ機能がオンにならないことがあります。その場合は、しばらく走行してください。また、エンジン警告灯が点灯するとアイドリングストップ表示灯は点灯しません。

以上のことを確認してもアイドリングストップ表示灯が点灯しないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

アイドリングストップ表示灯は点灯しているが、エンジンが自動的に停止しないときは？

1. 確実に停車していますか？
一定時間停車していないとエンジンが自動的に停止しないことがあります。確実に停車をしてみてください。
2. スロットルグリップを回していませんか？
スロットルグリップが完全に戻っていないと、エンジンは自動的に停止しません。スロットルグリップを完全に戻してください。

以上のことを確認してもエンジンが自動的に停止しないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

アイドリングストップ後、スロットルを開けてもエンジンが再始動しないときは？

1. アイドリングストップスイッチが“(A)”になっていませんか？
アイドリングストップがオンになっているときにアイドリングストップスイッチを“(A)”にすると、アイドリングストップがキャンセルされます。
2. サイドスタンドを操作していませんか？

サイドスタンドを下ろすと、アイドリングストップがキャンセルされます。

3. 長時間アイドリングストップしていませんか？

長時間アイドリングストップしているとバッテリーが消耗します。

以上のことを確認してもエンジンが再始動しないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

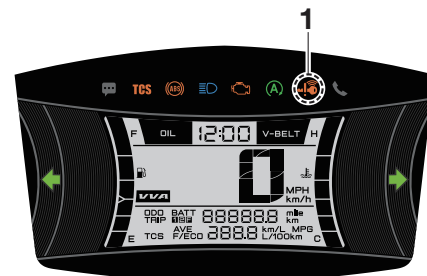
スマートキーシステムのエマージェンシーモード

スマートキーを紛失したとき、またはスマートキーの電池切れや故障などでスマートキーが使用できないときに、このモードの操作を行うことで、スマートキーがなくても車両の電源を ON にし、エンジンを始動することができます。

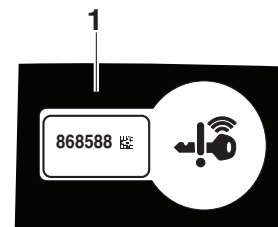
要 点

各操作を行うとき、それぞれの操作で決められた時間内に操作を終了しないと、エマージェンシーモードの操作を中止します。

1. 車を安全な場所に停車させ、メインスイッチを OFF にします。
2. スマートキーシステム表示灯が1回点滅するまでメインスイッチノブを5秒押します。この操作を3回行くと、スマートキーシステム表示灯が3秒間点灯し、エマージェンシーモードに移行したことを知らせます。



1. スマートキーシステム表示灯 “”
3. スマートキーシステム表示灯が消灯後、ID 番号カードを参照して ID を入力します。



1. ID 番号カード
4. ID の入力数値は、スマートキーシステム表示灯の点滅回数を数えて行います。操作例 (ID:123456 を入力するとき) メインスイッチノブを押し続けます。
↓

点検整備

スマートキーシステム表示灯が点滅を開始します。



1回点滅したところでメインスイッチノブをなします。



1 番目 (ID の左端) の数値「1」が確定します。



再びメインスイッチノブを押し続けます。



2回点滅したところでメインスイッチノブをなします。



2 番目 (ID の左から 2 つ目) の数値「2」が確定します。



以下、6 番目 (ID の右端) の数値を確定するまで繰り返します。正しい 6 桁の ID を入力すると、スマートキーシステム表示灯が 10 秒間点灯します。

要 点

下記のいずれかに該当した場合は操作が無効となり、エマージェンシーモードを終了します。このとき、スマートキーシステム表示灯は 3 秒間速く点滅します。この場合は、ステップ「2」からやり直してください。

- ID の入力作業中に 10 秒以上、メインスイッチノブの操作が無いとき
- スマートキーシステム表示灯を 9 回以上点滅させたとき
- ID が正しく入力されなかったとき

5. スマートキーシステム表示灯が点灯している間にメインスイッチノブをもう一度押すと、エマージェンシーモードが完了します。スマートキーシステム表示灯が一瞬消灯したあと、再度約 4 秒点灯します。
6. スマートキーシステム表示灯が点灯している間にメインスイッチを ON にすると、通常どおり車両を操作できます。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

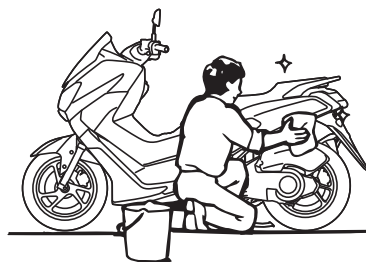
雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

JAU27976

ワックス：

ユニコンカークリーム



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。

- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポン

お車の手入れ

ジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

キャストホイールの取り扱い

JAU27991

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

警告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- 緑石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

ウインドシールドの取り扱い

JAU28051

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けられているか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11981

警告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

注 意

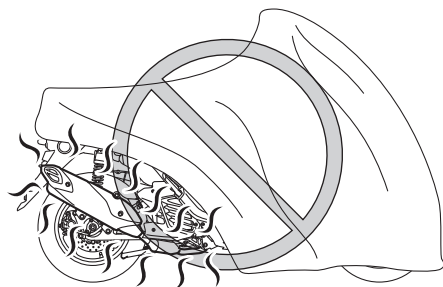
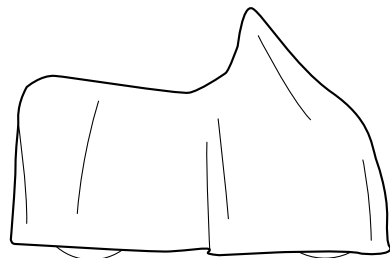
- ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。
- ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

JAU35912



JCA13111

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
 - バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
 - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU88210

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブブルーバージョン for スクーター

スクーター用低フリクションオイル
高回転かつ高温で運転される二輪車エンジン特有の要求性能に合わせて開発された部分合成ベースオイルに、摩擦低減剤を多く配合した4サイクルスクーター向けエンジンオイルです。

摩擦低減剤の作用により、アイドリング安定性・省燃費・出力向上などの効果が期待できます。

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

お車の手入れ

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。

大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。

高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。

価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。

コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

寸法：	フロントブレーキ：	方向指示灯（前）：
全長：	ブレーキ形式：	10.0 W
1935 mm	油圧式シングルディスクブレーキ	方向指示灯（後）：
全幅：	指定ブレーキフルード：	10.0 W
740 mm	BF-4 (DOT-4)	番号灯：
全高：	リヤブレーキ：	5.0 W
1160 mm	ブレーキ形式：	マーカーランプ：
シート高：	油圧式シングルディスクブレーキ	LED
765 mm	指定ブレーキフルード：	エンジンオイル：
軸間距離：	BF-4 (DOT-4)	推奨オイル：
1340 mm	フロントタイヤ：	ヤマルーブ Blue ver. For Scooter、プレ
最低地上高：	種類：	ミアムシンセティック、スポーツ、ス
135 mm	チューブレス	タンダードプラス
重量：	サイズ：	エンジンオイル量：
車両重量：	110/70-13M/C 48P	オイル交換時：
131 kg	メーカー / 銘柄：	0.90 L
乗車定員：	DUNLOP/SCOOT SMART L	ファイナルギヤオイル：
2 名	リヤタイヤ：	推奨オイル：
性能：	種類：	ヤマルーブギヤオイル
最小回転半径：	チューブレス	オイル量：
2.0 m	サイズ：	0.10 L
エンジン：	130/70-13M/C 63P	冷却水容量：
行程：	メーカー / 銘柄：	リザーブタンク（FULL レベルまで）：
4 ストローク	DUNLOP/SCOOT SMART L	0.13 L
冷却方式：	エレクトリカル：	ラジエーターと全ての経路：
水冷	電圧：	0.46 L
動弁機構：	12V	バッテリー：
SOHC	バルブワット数：	バッテリー型式：
気筒数：	ヘッドライト：	YTZ7V
単気筒	LED	バッテリー容量：
総排気量：	ブレーキ / テールランプ：	12 V, 6.0 Ah (10 HR)
155 cm ³	LED	

製品仕様

スパークプラグ：

メーカー / 型式：
NGK/CPR8EA-9

プラグギャップ：
0.8-0.9 mm

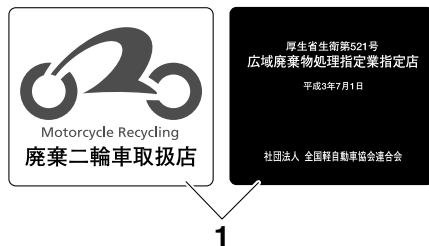
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

JAU36644

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

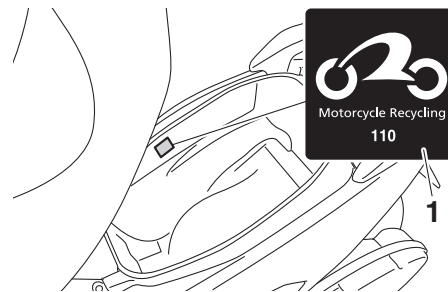
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>

公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

ユーザー情報

サービスマニュアル（別売）の紹介

JAU28393

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-BBD

車両情報

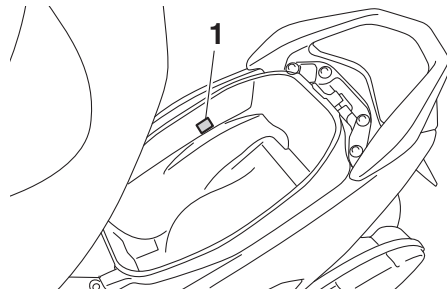
JAU50493

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、トランク内に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は
NMAX155

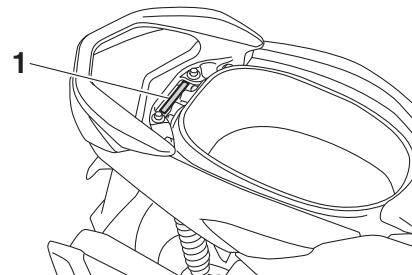
モデルラベル
製品仕様を示しています。

○
カラーリングを示しています。



JAU50501

車台番号



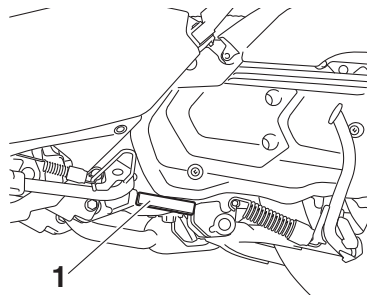
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原動機番号

JAU50511

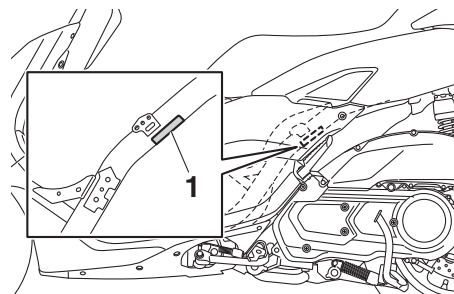


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

型式認定番号

JAU50522

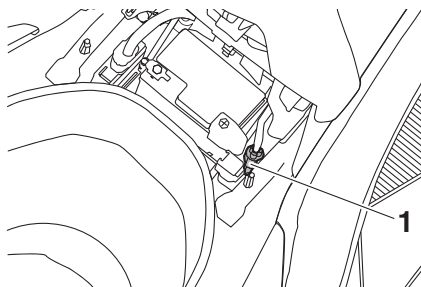


1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断コネクタ

JAU73861



1. 故障診断コネクタ

この車には故障診断コネクタが搭載されています。

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/>

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の3種類の車両情報を記録しています。

- 1) 車体番号
- 2) エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報
- 3) 故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

- 1) 適切なメンテナンスや故障探求のため
- 2) 適正な保証修理判定のため
- 3) 製品の研究開発
- 4) 製品、機能、およびサービスの品質向上のため
- 5) その他の事業目的を達成するため
- 6) 法律や規則に基づいて要求された場合

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および契約者会社に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関する請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できない場合がございます。あらかじめご了承ください。

お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

索引

あ

アイドリングストップ表示灯	5-2
アイドリングストップ機能	4-1
アイドリングストップ機能使用時の 注意	4-3
アイドリングストップスイッチ	5-9
アイドリングストップの起動	4-1
アイドリングストップの操作手順と 作動	4-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
アフターケア用品について	9-3

い

イグニッションサーキット カットオフシステム	5-18
---------------------------	------

う

ウィンドシールドの取り扱い	9-2
運行において異常が認められた 箇所の点検	8-17

え

ABS	5-10
ABS 警告灯	5-1
エアクリナーエレメント、 Vベルトフィルターエレメント	8-7
エンジンオイル	8-3
エンジンオイルトリップメーター	5-5
エンジン始動	7-1
エンジンのかかり具合、 異音の点検	8-4

お

オドメーター	5-4
--------	-----

か

加速と減速	7-2
-------	-----

型式認定番号	11-3
カバーの取り外し、取り付け	8-2
環境・住民の方との調和のために	1-6

き

キャストホイールの取り扱い	9-2
---------------	-----

け

警告灯と表示灯	5-1
原動機番号	11-3

こ

故障診断コネクター	11-3
小物入れとトランク	5-15
こんなときは	8-17

さ

サービスツール	8-2
サービスマニュアル（別売）の 紹介	11-2
サイドスタンド	5-18

し

シート	5-13
車体各部の給油脂状態の点検	8-13
車台番号	11-2
車両情報	11-2
車両情報の記録に関して	11-4
瞬間燃費表示	5-6
書類入れ	5-14

す

水温計	5-3
スタータースイッチ	5-8
スタンディングハンドル	5-16
スピードメーター	5-3
スマートキーおよび メカニカルキーの取り扱い	3-2

スマートキーシステム	3-1
スマートキーシステムの エマージェンシーモード	8-20
スマートキーシステムの概要	3-1
スマートキーシステムの作動範囲	3-9
スマートキーシステム表示灯	5-1
スマートキー操作のしかた	3-4
スマートキーの電池	3-5

せ

洗車	9-1
----	-----

た

タイヤ	8-9
-----	-----

ち

駐車	7-3
----	-----

て

DC コネクター	5-17
低速、加速の状態の点検	8-5
点検整備の実施	8-1

と

灯火装置および方向指示灯の点検	8-16
盗難警報器（別売アクセサリ）	5-7
時計	5-3
トラクションコントロール システム	5-10
トラクションコントロール システム表示灯	5-1
トリップメーター	5-5

な

ならし運転	7-1
-------	-----

に

日常点検箇所／点検内容	6-1
日常点検の実施	6-1

二輪車を廃棄する場合は？	11-1
ね	
燃料	5-13
燃料計	5-3
は	
ハザードスイッチ	5-9
バックミラー	8-12
発進	7-2
バッテリー	8-13
バッテリー電圧表示	5-7
パワーアウトレット	5-17
ハンドルスイッチ	5-8
ひ	
ヒューズ交換	8-15
表示単位切り替え	5-2
ふ	
ファイナルギヤオイルの交換時期	8-4
VVA 表示	5-4
V ベルトトリップメーター	5-6
フューエルタンクキャップ	5-12
フューエルトリップメーター	5-5
ブレーキ	7-3
ブレーキ液量の点検	8-12
ブレーキパッドの点検	8-11
ブレーキレバーの遊び、 きき具合の点検	8-11
フロントブレーキレバー	5-9
へ	
平均燃費表示	5-6
ヘッドライト上下切り替え スイッチ	5-8
ヘルメットホルダー	5-14

ほ	
ホーンスイッチ	5-8
方向指示器スイッチ	5-8
保管のしかた	9-3
歩行者と他の車のために	1-5
ま	
マルチファンクション ディスプレイ	5-4
マルチファンクションメーター	5-2
め	
メインスイッチ	3-6
も	
モデルラベル	11-2
り	
リヤクッションの調整	5-16
リヤブレーキレバー	5-9
れ	
冷却水	8-5

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-101-BBD

PRINTED IN INDONESIA
2023.10